

BLOWERS



No.

16

乗 船 口

- | | | |
|----|--------------------|-----------------------|
| 3 | SONIC DIVER | 文・正宗征士
絵・井村和正 |
| 11 | Mental Ranger | 文・正宗征士
絵・ただのりな |
| 15 | 真鶴学園風雲録 | 文・岬当麻
絵・セージ |
| 32 | 《三等雑居室》 | |
| 41 | Peace Presser Maya | 文・本居小次郎
絵・牛
T I |
| 51 | 元ネタを探せ！ | 盗・岬当麻 |

※「真鶴学園風雲録」に参加するためには、別売りのルールブック（200円）が必要です。今回は「風雲録」参照の上、7/24までに行動予定を送って下さい。

※次回より空戦PBMの新シナリオ「FOX AWAY」が始まります。今回は5周年記念感謝サービスとして、皆さんに無料でルール一式をお送りいたします。気が向いたら参加してください。

※「LOOK OUT!」は筆者多忙のため、休載しています。

※「榛名とはるな・ダイジェスト」は筆者多忙のため、休載しています。

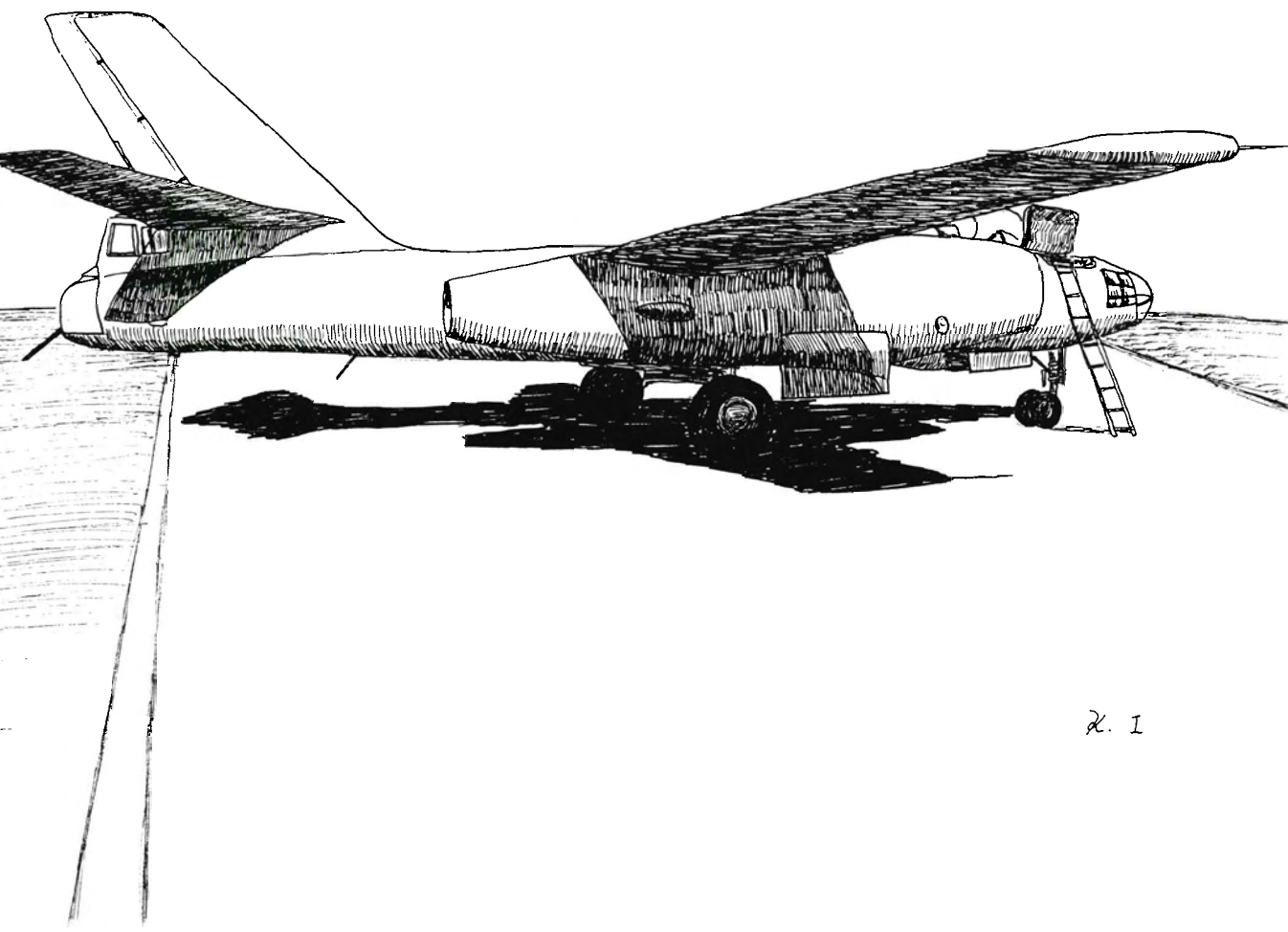
※「迷想装甲擲弾症候群」は筆者音信不通のため、休載しています。

17号の料 金 表

- ①定価300円。（無記名の定額小為替・消印に注意）別に郵便切手250円分。
- ②小為替を買うヒマがないという時は、郵便代込み62円切手9枚で代用しても可。ただし、なるべく小為替使用を心がけること。（高額切手は使わないこと）
- ③高校生以下の方には、学割制度があります。年度始めに学生証その他身分証明のコピーを送れば、その年度は定価の50円引き。顔写真など不要な部分は塗りつぶしても可。この割引を使う場合は、郵便切手での代用は不可。
- ④団体割引もあります。これは本の発送先を、3冊単位でまとめて構わないということだけ。ただしそれで一人分の郵便代が減るので、多ければ多いほど「ちょっと得」になる。この割引を使う場合は、郵便代計算の都合があるので、事前にこちらに相談して下さい。

※なお、コスト低減のために印刷冊数をギリギリまで削るので、PBMに参加しない人も、なるべく「原稿締切日」までに連絡のこと。代金は多少遅れてもいいので、とにかく要る冊数だけは教えて下さい。

SONIC DIVER



イザベリア海軍航空隊

☆戦果報告

ガルマン大佐：正直言って危なかったが、ぎりぎりのところで和平条約が締結された。調印式があと1時間でも遅かったら、プニュの石油施設は陥とされていただろう。とりあえず我々の占領地の領有権は認められた。ご苦労だった。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	愛称	キャラクター名	S	D	B	S	P	O	P	階級	状態	機体
岬当麻	71	F4D	Z Z G	ルー・ルカ								中佐	戦死	
篠原崇	70	Hnt	“吹けよ風、呼べよ嵐”	アマリア=イアハート	0	0	3	3	3	3	3	准尉	生還	無傷
	70	Hnt	EARTH	アール・デュムレスト	0	0	6	4	4	4	4	准尉	生還	無傷
	70	Hnt	-	トロン・ミラン	0	1	1	2	5	5	5	少尉	生還	少破
	70	Hnt	逆境ナイン	不屈 闘志								中尉	戦死	
	70	Hnt	エルフ17	ルウ								中尉	戦死	
	70	F9F	くいんまんさ♡	エルビー・ブル	2	0	6	6	2	1	1	大尉	生還	無傷
	70	F86	翠玉女伯爵	ビザ・フェイス	1	0	6	2	1	9	9	大尉	生還	無傷
	70	J35	蒼い彗星	エル=プライス	2	0	14	2	9	9	9	大佐	生還	無傷
	72	Hnt	ウォープリンセス	アルコ・クラッハ	0	2	2	8	5	5	5	中尉	生還	無傷
72	Hnt	アクシズ	榊原 良子								大尉	戦死		
井村和正	71	Shk	ゼーアドラー	ドライゼ	0	0	1	1	1	1	1	准尉	生還	無傷
	99	Sfr	-	フォルスター	0	2	5	1	9	9	9	大尉	生還	無傷
	99	AD	-	ホームート	0	3	6	4	1	1	1	大尉	生還	無傷
	99	G91	見敵必殺	メルダース	0	6	10	7	2	5	5	中佐	生還	無傷
菅原忠幸	71	Hnt	サンダー	マックス・ブラウン	1	0	3	2	2	2	2	准尉	軽傷	中破
	71	Hnt	バル・ロゼ	ジャン・ピエール	0	0	3	2	2	2	2	准尉	軽傷	少破
	71	Hnt	ロードハリケーン	マートロック・ジェイド	1	0	3	2	2	2	2	准尉	軽傷	少破
	71	F89	ダブルシザーズ	キリーク・シマー	0	0	5	6	2	0	0	大尉	生還	無傷
				アーサー・ベリー			2	2	6	6	6	少尉		
	71	F11	昇竜	リュウ・シキフネ	4	0	18	3	2	2	2	大佐	生還	無傷
	72	Cnb	ビッグフット	フィラデルフィア・カーマイン	0	5	10	1	7	7	7	中佐	生還	無傷
				ヒロト・クマガイ			2	4	4	4	4	少尉		
				ガルシア・ブルー										
	72	Cnb	白虎	ゲン・ホー・キム	0	3	8	0	1	4	4	少佐	生還	無傷
			ギンゾウ・テル			3	9	6	6	6	中尉			
			レイチェル・サラ			1	3	5	5	5	少尉			
72	A3D	ジャイアント・ボム	ウィリアム・ジェームス	1	3	10	4	1	8	8	中佐	生還	無傷	
			ロン・シャオレン			6	5	1	0	0	大尉			
			ジュン・ミズサワ			3	0	3	3	3	中尉			
遠藤誠	71	Shk	ネーレイド	カール・グリソン	1	0	7	2	2	2	2	准尉	生還	無傷
	71	F9F	メリーセブンⅢ	ジョン・シュンカー	2	0	3	9	1	1	1	中尉	生還	無傷
	72	Hnt	Prediger	アンス・フリアン	0	2	2	5	1	0	0	中尉	生還	少破
	72	F94	Eroberung	五島 三四郎								大尉	戦死	
	99	AD	Stolzes-1	望月 浩二								中尉	事故	
	99	AD	Stolzes-2	ボールドウィン	0	3	4	2	9	9	9	中尉	生還	少破
	99	G91	フェアリーテール	マクレーン・シーカー	0	2	5	8	1	2	2	大尉	生還	無傷
秋信敏男	70	J29	-	J. M. ワード	1	0	3	2	2	2	2	准尉	生還	無傷
	70	Hnt	-	H. ストメル	2	0	9	3	3	3	3	准尉	軽傷	少破
	70	100	-	J. E. Warnock	3	0	7	0	2	8	8	少佐	生還	無傷
	71	F86	-	K. Penn	2	0	8	3	2	0	0	少佐	軽傷	少破

	7 2	H n t	—	D. ゴードン	0	6	2	1	3	少尉	軽傷	中破
	7 2	F 9 F	—	S. Venturs	1	4	5	2	1	0	大尉	生還無傷
	9 9	H n t	—	R. E. ムーア							中尉	戦死
日高耕	7 0	H n t	Kalmar	ネリー・ザックス	2	0	3	1			准尉	生還少破
	7 0	H n t	Mercury	ウィリアム・ハウ	2	0	3	1			准尉	軽傷少破
	7 2	H n t	Diana	アキレ・オケット	1	0	4	3			准尉	軽傷少破
	7 2	H n t	Niebelungen	グスタフ・ノスケ	0	0	6	3			准尉	生還無傷
	7 2	F 9 F	ニン・グロス・ファルツ	ヴォルフガング・レオンハルト	0	2	4	6	1	3	大尉	生還無傷
	7 2	B 4 5	Siva	マータ・ディオ ウィルヘルム・グレーナー	0	3	1	7	5		少尉	生還無傷
				ピエトロ・ネンニ ハイダル・アーリー			1	6	3		少尉	
				ガーン・デヴィ シャーニルフ	0	2	1	2	2			
				ラビンドラ・タゴール チャンドラ・ラーマン			1	0	2			
	7 2	E 4 5	Visnu	0	2	2	9	5			中尉	生還無傷
				0	1	4	2				少尉	
	9 9	F r b	Pröbewater	パウル・デアコス	0	3	9	3			准尉	生還無傷
	9 9	F r b	Hades	オデュッセイズ・エリティス	0	2	5	1			准尉	軽傷中破
9 9	A D	Hephaestus	チュアン・マクガイア	0	4	3	9	1	1	中尉	生還少破	
赤木崇敏	7 1	F n t	Serenade	ジェフリー・オーウェン	2	0	1	7	4		少尉	生還無傷
	7 1	F n t	Sonata	ヴィルヘルム・シュタイン	0	0	9	3			准尉	生還少破
	7 2	A D 4	Etude	レナルド・ウォルポール	0	5	3	3	6		中尉	軽傷少破
	7 2	A D 4	Fantasia	ジュリオ・グラムシ	0	4	3	4	4		中尉	生還中破
	7 2	A D 4	Prelude	オットー・ブルンフェルス	0	2	4	0	1	1	中尉	生還少破
	7 2	E 4 5	Solo	エルネスト・クローチェ レオン・クリステイ グスターヴォ・ブルーノ	0	1	0	3	2	4	中尉	軽傷少破
				2	1	1					少尉	
	7 2	A D	Symphony	フィリップ・プラント							大尉	戦死
	7 2	E 2 6	Aria	アウグスト・シュレーゲル リナルド・マサッチオ リシャル・マクマオン	0	3	3	7	1	0	中尉	生還無傷
				0	1	5	2				少尉	
	7 2	E 2 6	Recitative	アルベルト・ビューロー ポール・アベラール ジョルジュ・ブラック	0	3	2	2	6		少尉	生還無傷
				0	1	5	3					
	9 9	A D	Ballad	アルフレッド・クルップ	0	2	2	4	4		少尉	軽傷撃墜
菊川智範	7 2	H n t	赤い狐	サンダー・平山							中尉	戦死
	7 2	H n t	—	E. アッベ	0	2	5	1			准尉	軽傷大破
	9 9	H n t	赤い竜	司馬 炎	0	1	9	3			准尉	生還無傷
	9 9	A D	青の虎	司馬 光	0	2	2	6	3		中尉	生還無傷
林孝始	7 0	H n t	Gurdian-1	ジョン・エヴァンス	2	0	1	0	4		少尉	軽傷中破
	7 0	J 2 9	Gurdian-2	ヴェルナー・ガト							中尉	戦死
	7 2	S h k	Gurdian-3	ジャッキー・パーグマン	0	4	1	8	3		少尉	軽傷少破
	7 2	S h k	Gurdian-4	ケニー・グローバ	0	3	1	3	3		少尉	生還無傷
	7 2	A D	—	ウィルソン・リックフォード	0	3	2	2	5		少尉	軽傷少破
	7 2	H n t	流星	カオル・ヤギザワ	0	2	4	4	9		中尉	生還無傷
	7 2	F 8 4	THUNDER BLADE	ジル・グラスランナー							中佐	戦死
	7 2	S f r	—	クレイ・コリンズ							中佐	戦死
	9 9	P 4 7	—	ジェフ・カーミン	0	2	8	2			准尉	生還無傷

☆申請機の略号

B45…B-45C トーネード AD4…AD-4 スカイレイダー
P47…P-47D-40 サンダーボルト

☆申請機の価格

B45…3000zg P47…800zg

イエール空軍義勇航空隊

☆戦果報告

《本国基地》

オイラー大佐：戦争は終わった。奴らが占領した土地はそのまま奴らの物になった。諸君らの任務もこれまでだ。私物をまとめてどこへなりとも消えてくれ。

《日本分遣隊》

ミリヤークフ少佐：ハラショー！我等が偉大なる極東ソビエト軍は、士気のたるみきった西側連合軍を打ち破り、東京の保持を確固たる物にしたのだ。事ここに至ってようやく彼らもわが攻勢に屈服し、停戦を受け入れた。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	愛称	キャラクター名	S	D	B	S	S	P	O	P	階級	状態	機体
正宗征士	91	F9F	—	O. フュージョン									中尉	戦死	
	91	F9F	—	S. プリヤン									中尉	戦死	
	91	M15	—	ミラード・ワシントン									大尉	戦死	
笠原和子	90	M15	Gold	J. ウォーカー									中尉	戦死	
	90	M15	Twenty Five	S. アンバサダー									中尉	戦死	
	90	M15	Lord Poapoa	M. T. ポアポア									中尉	戦死	
	93	HUR	BRITISH	C. モカ	0	5	7	6	1	0			少佐	生還	大破
宇垣麻美	90	F9F	—	S.M. トシト									中尉	戦死	
	92	M15	—	M. プルミエ									中尉	戦死	
	92	M15	—	V. プレティフ									中尉	戦死	
下永弘典	90	M15	73	ダーグイド・ラッセン	1	0	2	7	9				中尉	生還	少破
	92	AU	A1	ジャック・フロイト	0	2	1	6	6				少尉	生還	少破
	92	AU	52	ユーレイ・ロマノフ									少佐	戦死	
	93	Mst	62	レオニード・ユースポフ	2	2	7	2	1	0			少佐	生還	無傷
	99	HUR	D1	ソート・ピエール	0	5	1	1	1				少尉	生還	少破
	99	AU	Clayton	マイリッヒ	0	3	1	3	3				少尉	軽傷	少破
山田国見	90	M15	Chimaera	アンドレス・ベリヨ	1	0	6	4					准尉	生還	少破
	90	M15	Harpy	インクリース・メーザー	0	0	1	1	6				少尉	生還	撃墜
	90	M15	Sphinx	ヤコブ・スミット									中尉	戦死	
	91	F86	Prudence	グアイツ・シュトライザー	2	0	3	6	8				中尉	生還	大破
	93	F84	Thunder Bolt	オマル・ハイヤム	0	5	7	5	1	1			少佐	生還	少破
	93	B1N	AwkwardnessIV	カール・ドルス	1	2	8	9	1	3			少佐	生還	無傷
				レオン・ブルームハルト									大尉	生還	無傷
	93	B1N	Mermade	ニコラス・ワイズマン	0	2	6	7	1	1			大尉	生還	無傷
				キャロル・グラック									少佐	生還	無傷
	93	B1N	Vampire	トーマス・アキナス									中佐	戦死	
				ジョン・ホワイトハースト	0	1	6	3	1	1			大尉	重傷	撃墜
	99	B26	Caprice	ジェームズ・キングズベリ	0	3	4	4	6				中尉	生還	墜落
				ウィリアム・フェル ルイジ・ピランテロ											

	99	Tu2	Gargoyle	アークウィン・フリードレンダー ジョルダン・ブルー	0	234	4	中尉	軽傷	少破
--	----	-----	----------	------------------------------	---	-----	---	----	----	----

☆申請機略号

B1N…ボートウールII-1N Tu2…Tu-2Sh

☆申請機価格

N O T E

※今回の参加締切りは7月17日（**必着**）です。

今月の動き

○1958年1月30日の「朝日新聞夕刊」：イザベリアで依然くすぶり続けていた戦火は今日の正午、イエールが降伏文書に調印したことをもって正式に終わりを迎えた。この数年間に発生した世界各地の紛争の中で、西側国家が完全な勝利をおさめた、極めて稀なケースである。

○同6月1日の「タイムス」：昨30日、イザベリア占領下のイエールで、自由主義に属する政府が正式に成立した。同日国連総会もこれを承認した。今後イエールは西側世界の一員としての道を歩むことになるであろう。

FOX AWAYまでの経緯

- 1961 ベルリン再封鎖。壁ができる。
- 1962 キューバ危機。このころより各国植民地の独立が盛んになる。
- 1963 ケネディ大統領暗殺。
- 1965 米軍、ベトナム内戦に介入開始。
- 1966 中国で文化大革命始まる。イエールで6月事件発生。ソ連特殊部隊によるクーデター未遂。イエール政府、イザベリアと合併の意志を表明。
- 1967 第3次中東戦争。イスラエルが圧勝。この頃からベトナムでの米軍劣勢が明らかになる。ベトナム反戦運動のピーク。
- 1968 英軍、スエズより撤退。ソ連軍、チェコへ軍事介入。
- 1969 イエール、イザベリアに吸収合併。この頃から「イエール共産党」のゲリラ活動が顕在化。

キャラクター引き継ぎにあたっての注意

次回より「FOX AWAY」（1970年）に移行しますが、現在使用中のキャラクターを持ち越す場合は、階級に変動がありますので注意して下さい。

准尉・少尉→大尉

少佐・中佐→中佐

中尉・大尉→少佐

大佐→据え置き

SPはそれぞれの階級の、最低ポイントとします。ただし今回は、キャラクターの持ち越しは5名（機数ではなく）までとします。所属国を変えるのは構いません。

また持ち越しの全キャラクターは、それぞれの国の最上位から二番目の勲章（ただしSPのボーナスは無し）を与えられます。今後もらった勲章は全部、キャラシートの右上の余白に明記して下さい。

※1970年7月現在50歳以上60歳未満のキャラクターは、特例として次の条件で継続参加することができます。この特例による持ち越しも、上記の人数制限に含まれます。

- ・開始時点で大佐になっていること
- ・階級は「上級大佐」とする
- ・対地攻撃、または対ゲリラ任務のみ参加可能
- ・SP150より開始

次 回 の 作 戦

《イザベリア軍》

アレックス大佐：ようこそ我がイザベリア軍へ。今回君達を雇った第一の目的は、何をさておいてもイエールのジャングルに潜む時代遅れの共産主義者どもを、一人残らずイザベリア領内から叩き出すことだ。対ゲリラ戦が主であり、対空戦闘はむしろ従であると考えてもらいたい。ベトナムの戦訓から考えると、彼らゲリラの戦術的脅威は取るに足らないが、長期的視野で見た戦略的脅威は核弾頭のそれに匹敵するであろう。諸君らの責務は重大である。活躍を期待する。

さて、今回の任務だが、現地住民の通報により、彼らが使用しているとみられる野戦基地の一つが特定できた。これを潰してもらおう。……敵がいるかどうかは関係ない。いなければいいので、二度と使えないようミキサーにかけてやれ。なお、最新の情報ではSAMが配備されている可能性もあるという。注意は怠るな。以上。

☆部隊編成

〈サンダカン〉

飛行第70戦隊（対空）

飛行第72戦隊（対地）

飛行第71戦隊（対空）

独立飛行第99中隊（対ゲリラ）

《イエール共産軍》

ウシャコフ大佐：気をつけ！早速諸君らの任務を伝達する。この基地が発見されたとの情報が、イザベリア軍内の協力者よりもたらされた。近々攻撃があるだろう。ただ今より飛行は一切禁止する。この基地への攻撃部隊が確認され次第ただちに出撃、迎撃した後その時指示する別の基地へ移動せよ。なお、戦闘時以外は高度500m以下を保て。以上だ。

★部隊編成

〈野戦基地〉 90RW（対空）

99RW（対地）

FAの 正誤表

イザベリア軍の機体リストに、次の数値を追加して下さい。

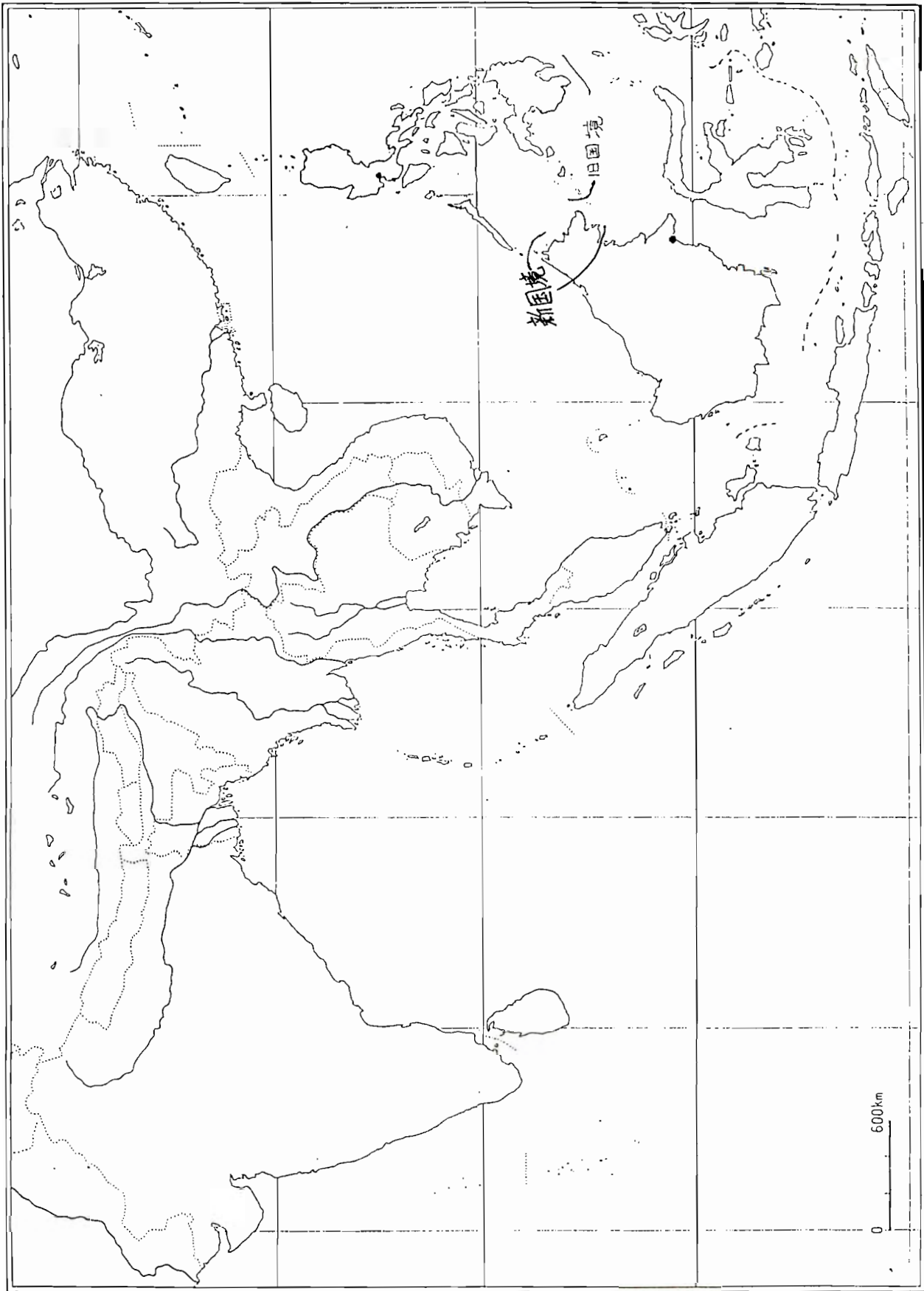
- ① J35F ドラケン 搭載力1000kg・最大速度2231km/時
- ② F-101B ブードゥー 搭載力1000kg・最大速度1970km/時

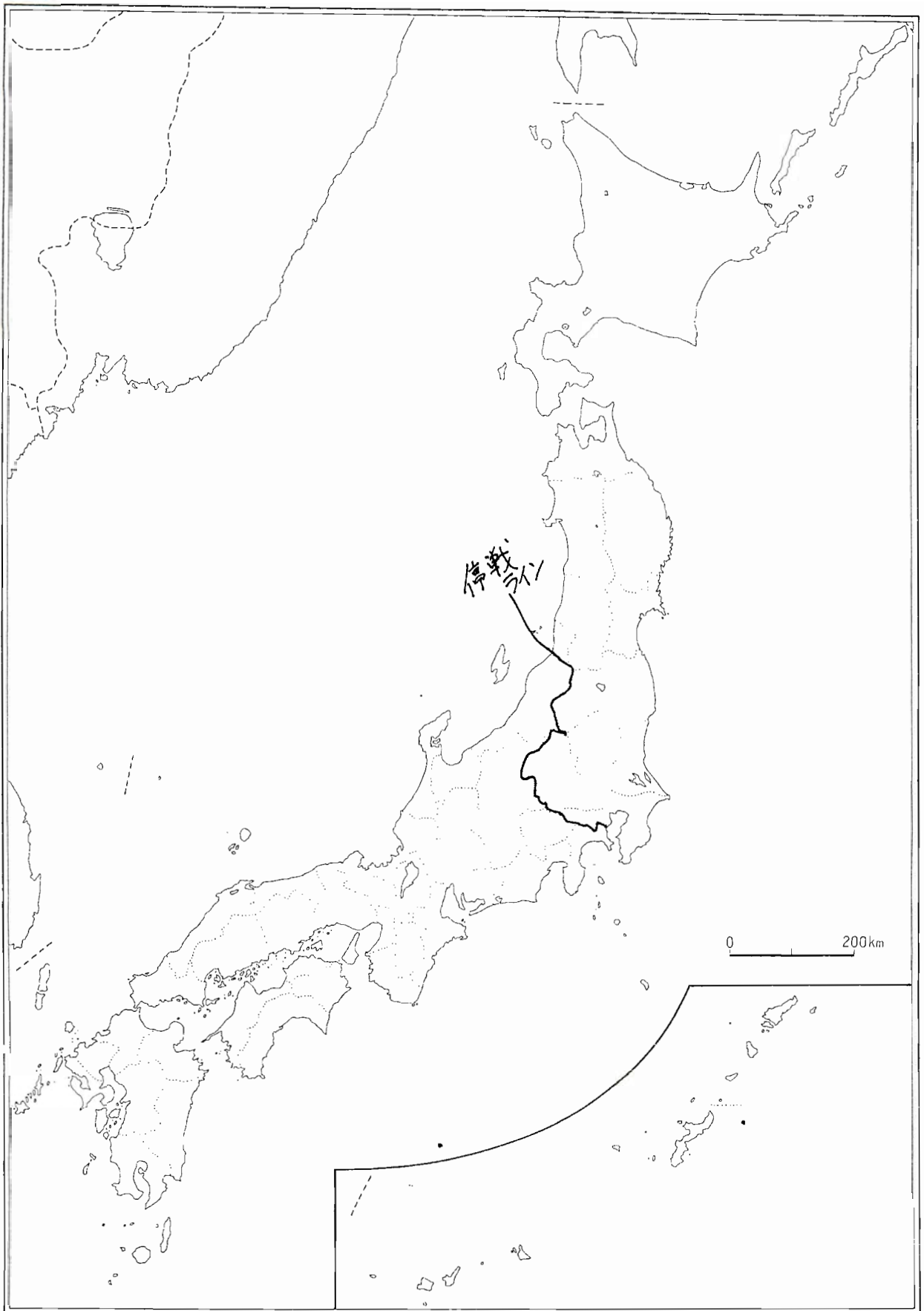
編 C 後記 (SD-FA編)

朝鮮期シナリオもようやく終わりです。……長かった。ただひたすらもう、長かった。中だるみ、倦怠期、専門外等と言ってしまうとそれまでですが、一応歴史を追う上では避けて通れませんので……つまらないものに長々と付き合わせてしまって、申し訳ございません。今度は何とかしたいのですが……正規軍vsゲリラじゃ、盛り上げようがないよなあ……でも、正規軍同士じゃそれこそICBMが飛びかねませんからね、この時期は。ましてこの地域だし。ベトナムで核弾頭が飛ばなかったのはアメリカ国民の世論という要素も強いのですが、「コストパフォーマンスが悪い」というのも一つなんですよ。その点、イエールってところは何かんだ言って産業は発達してるし、イザベリアはイエールに核をぶち込んだところでさほど気にはかけないはず。何せこっちの世界では「ヒロシマ・ナガサキ」はなかったのだから、「核」がどんな物であるか、まだ実感として感じることはできないでいるのです。せいぜい「とても強い爆弾」程度の意識でしょう。

それに、「塔」の存在がありますし……あれだと、イエールの北半分なら完全に射程内です。正規軍同士にした方が、今回のタイプよりもバランスが崩れるんですよ。とりあえずイエールのプレイヤーが増えないことには、いつまでたってもイエールはきつままですよ。イザベリアのプレイヤーもつまらないでしょう。知り合いにその気がありそうな人がいたら、ためらわず引き込んでください。お願いします。

現代戦シナリオ、できるかなあ……





*M e n t a l
R a n g e r*



10：ダイクマ・ロレンスは精神的に一層参っていた。フェルディナンドの導き通りに子供を連れてきても、数日を経ただけで衰弱し、フェルディナンドが遣わした医者の治療は全て裏目になる。

遣わされる医者はみな違うし、どれも「魔界」の高官の主治医ばかり————魔王といえど体調を崩すことはあるのだ————であるから、町医者がよく犯す誤診というケースは考えられない。

では、疫病？

それも変だ。魔界にもとからいる人々は元気だ。彼らと同じように生活し、同じものを食べているのだから……

彼女が知っている範囲では、それ以上の考えは浮かばない。フェルディナンドの話では、子供の方がこちらの環境に順応できる強さを備えていないかららしいが、どんなに丈夫そうな子供を選んできても、一週間とはもたないのである。

確かに、こっちの空気は悪い。濁っている。しかしそれが、どれほどのものかというのだろうか？現に私は今も、自由に動き回ることができる。

「貧しい子供を救い、良いものを食べさせ、良薬を正しく与えるのだ」

フェルディナンドは事あるごとにそう言う。しかし事はそううまく運んでいるとはとても思えない。そのジレンマは常にダイクマに付きまどって離れなかった。

不意に、吐き気を伴った鋭い頭痛が、彼女を襲った。激しくむせ込むと、口にアてがった手にはべったりと黒ずんだ血のりがこびりついていて……。彼女が連れてきた子供たちの末期症状に近い。自分もいつか、あの子らのようにやせ衰えて死んでいくのだろうか？

それならば、それで構わない。多くの子供たちを徒に死なせてしまったことへの、当然の報いだ。甘んじて受けよう。

ミラマーはラングレーの社の裏にある古井戸の傍らに、キサラと共に立っていた。井戸をはさんで向い側にラングレーが立っている。

「やはり……こうするしかないのか」

「……何分、時間がございませんので」

ミラマーは彼の瞳をみつめた。

「フェルディナンドとやりあうことになるかも知れません……その時は、街の民のことを、よろしく願います」

「わかった」

ラングレーは悟った。ミラマーは戻ってこない……連れ去られた子供は帰らないが、これ以上連れ去られることも、ないだろう。ミラマーにできないことは、少なくとも今のラングレーにもできはしない。そのことを熟知している彼は、あとは何も言わなかった。

「それでは」

ミラマーはたらしたローブを伝って井戸に入った。キサラがすぐに続く。ラングレーは上から松明をかざし……水の代わりに底に満ちている黒いもやの中に二人が消えると、まずローブを外した。ふたを戻すことはためらわれたが……結局、彼は「井戸の口」を封印し直した。

彼女たちが再び姿を見せることは……ないだろう。

11：ミラマーに続いて闇の中から抜け出したキサラは、自分が空にいることに気付いて、慌てて浮遊の術を使おうとした。が、ミラマーに止められた。

「術は必要ない」彼女は冷たく無表情だった。緊張しているのが察せられる。

「私らは今、実体のない存在なのだから……」

「解脱の術、ですか」

「解脱とも違うな」

ミラマーは振り返らず、どんどん地表へ下っていく。キサラもそれ以上聞かずに黙ってついて行った。不思議にも彼らの体は何かに乗っているかのように安定していて、揺らがなかった。

彼女たちが降り立ったのは小さな祠の前である。ミラマーの宗教のものと全く同じそれを見て、キサラは目を丸くした。

「別に驚くほどのことではない」ミラマーはあたりを伺いながら、声を殺して言った。「似たようなものはいくらでもある……魔界の民も、そのことは知っている」

「なぜ……」

あまりの意外さに、キサラは二の句がつけなかった。

「何でもない。彼らも同じ宗教を信じているからだ」

「!?」

キサラはもはや訳が分からなくなっていた。それでは何故、彼らのこの世界を魔界と呼ぶのか。そもそも魔界とは一体何なのか。白と黒のように我々の世界とは対局に位置するものではないのか。

「深く説明する暇はない。行くぞ」



ミラマーについて表に出たキサラは、空気が今までよりもはるかに埃っぽかったせいで、すぐにのどを傷めた。

「深く息をしないことだ」ミラマーは静かに諭した。「咳はしたところで聞こえはしない。我々の姿自体、普通の者には見えない。……あまり神経質になることはない」

実際、祠のそばで遊んでいる子供たちがいたが……彼らが彼女たちに気付いた気配はなかった。彼らの格好もまた、「現世」のそれとまるで変わるところがない。

森に包まれた道を出ると、まだ舗装されていない通りに出た。一つだけ「現世」と異なるところは、その交通量が比べものにならないほど多いことである。王都でさえもこれほど多くはないだろうと思われるほどだ。それくらい、ひっきりなしに馬車が行き交っていた。

「！」

キサラは突然、驚きに身をすくませた。馬のない馬車が走ってくる！

「驚くことはない。これからもたまたまに

見ることになるだろう……“馬なし馬車”だ

姿勢のミラマーはともかくとして、ローブにスッポリと身を包んだキサラは、それだけで人目を集める存在のはずだったが、実際は誰も彼女たちの姿に気がつかないかのようなようだった。道を行く人々の表情はみな暗く、周りの「風景」にはまったく関心がないようにも見える。その中でレンガ積みの建物が壊され、あるいは新築されている。全てを統合する単語は、「灰色」。

キサラは不意に、恐怖にも似た悪寒を覚えた。

「寒いかな？」

ミラマーがキサラの震えに気付いて問う。キサラはあたりの雑踏に負けない程度に声を押し殺し、言った。

「悲しい街ですね」

「この街は、我々の現世の、真実の姿を見せているにすぎない」

ミラマーの声も、この街並みのように無表情だった。

「喜び、悲しみ、影日向。全ての事物には対局に位置するものが混在する……この世界は、現世を裏返したただけだ。現世で死んだものはこちらへ転生し、魔界で死んだものが現世へ転生する。それは太祖の教えでもあって……」

ミラマーの「説教」はそこで止まった。

通りの辻で、印を結ぶ者がいる。

「気付かれた!？」

ミラマーが反射的に懐から御幣を取り出し、構える。キサラはとっさのことに対応が遅れた。

「悪霊退散!」

「敵」は袖の内から取り出した札を、正確にミラマーたちを狙って飛ばしてきた。

「こっちの台詞だ!」

ミラマーが御幣を一薙ぎする。それだけで札は紙吹雪と散り、敵を狼狽させた。

「破邪、喝ッ!」

彼女はさらに、左手の平を突き出した。一陣の突風が巻き起こり、風は「かまいたち」のように相手を包みこんで身体を切り刻んだ。周囲の群衆がざわめき、さっと空間が出来上がる。

「敵」は悶えながら倒れた。

周囲はなおもミラマーたちに気付かない。否、見えないのである。

「これが魔界での事実……」

キサラが呟くと、ミラマーはうなずいた。

「魔界では現世の正が邪となり、邪が正となる。……訓練された能力のあるもののみが私たちを見ることが出来る。それだけに、何時どこから襲われるかわからん……警戒を怠るな」

「馬なし馬車」がまた一台、彼女たちのかたわらを通り過ぎた。(続)

夜界の謎とは何ぞや?

「MR」での夜界の真の姿を当てた市川抽選で1名様に夜技から豪華プレゼント! 是非「三寄雑居室」を参照!!



「教えとは云々」

キの答を待ってるぞ!!

「単純です」
実はとって

誰か困らな
いねーぞ、ミラマー...



真鶴学園風雲録



RINAさん、お-まんあんがと、絵うまくてい-なあ。

春日千明が風紀委員会室にやってきたのは、夕食直前の、校舎の方に人影がまばらになってからのことだった。夏の暑気は換気の悪い廊下の中にしぶとく残っていて、じっとしていても汗ばむほどだ。

扉の前で、彼女は今一度あたりを見回した。尾行はないはずだったが、やはり、気になるものは気になる。スカートのポケットに手を突っ込み……おっかなびつくり合鍵を取り出した。かなり危ない橋を渡って、真鶴の街の金物屋につくらせたのだ。ばれれば退学ものだ。……が、鍵は必要なさそうだった。鍵を差し込んだはずみに鉄でできた引き戸が、二枚セットのまま部屋の方へ倒れたからである。

扉のことにも肝を冷したが、それ以上にショックだったのは、室内の惨状である。

ロッカーの中の資料は、あらかじめ持ち去られていた。さらに委員会室備付けのパソコンが、一つ残らず破壊されていた。学校で買っているものだ、そこらの普及機などではない。校内事務用からの払下げだから年式は落ちるものの、れっきとしたNECのH98、ハードディスクその他周辺機器も全て純正品を使用している。単体の総額でも200万くらいは楽に突破する代物だが、真の問題はそんな事よりももっと別なことにあった。これだけの事をやっておいて、なお一つも警報装置が鳴っていないというのは、どう考えてもおかしい。春日が知っているだけで4段階8種類の防犯システムが存在していて、なおその上に幾重にも渡るシステムがかけられているはずだった。委員の彼女でさえ、時として不注意からシステムを誤作動させてしまうこともあるというのに、これは一体……

不意に、春日は遠くから監視されているような気がした。はっとなって振り返るが、誰もいない。割られた窓ガラスから、むっとするような一陣の潮風が舞い込み……追い立てられるように、彼女はその場を立ち去った。

立花陽明は夕方、榛名の艦隊が帰ってくる頃合いを見計らって、如月まどかをたずねた。「M」について質問するためである。自分はそんな事を調べた覚えはない。それに付いて如月の回答はシンプルだった。

「GHQのマーカットって人を調べてごらん？」

「マーカットですか……？あの、GHQって何ですか？」

如月は一瞬、疑うような目付きになった。ついでまじまじと立花の顔をのぞき込み、傍らにいた榛名に自嘲的な笑みを送った。

「提督、あたしらも老いたね……」

「ムリないね、そりゃあ……」

「あのう、GHQって……」

「すぐわかるよ」

如月は以前よりもずっと愛想がなくなったように、彼には思えた。

はるなの特訓はまだまだ続く。7月に入ってから前後席が入れ替わり、それに対応して厳しさもさらに増した。早い話、はるなもまた、「自分で飛ばないと気が済まない」という点では、「ごく普通」のパイロットだったのだ。それでも「教えること」の意義は理解していたから、そのジレンマがまともに坂井に降りかかっていたわけだ。

機材は相変わらずE型ファントムだった。はるなの言い分は「機銃がないと技術の全部は教えられない」ということなのだが、後席に操縦装置のないS型ファントムを避けているだけなのは、ハタから見分には誰の目にも明らかだった。第一はるなの持つ空戦テクなど、よくウイングマンを務める扶桑に言わせれば「半分もマネできたらテレビに出れる」のだ……。

「山桜隊」の個人授業を受け、「宇垣一家」の保護の下にある坂井は、校内ではこの上ないほどの果報者のはずだったが、ここへ来て微妙な問題を抱えはじめていた。

もともと入学当初からはるなにべったりだった坂井は、特に内進生を中心として嫉みを買う存在だった。空戦技でなまじ素質があったことが、更に拍車をかけていた。この点榛名寄りではあったが風紀委員の立場と仕事上坂井ほどべったりになれなかった春日は、まだマシな所に位置していたのだ。模型部の人事に従おうとしない坂井は、また、それだけでも充分目立つ存在だった。それまで「風紀委員」という大きな「敵」があった中でそこそこの団結があった校内の社会は目標を失い、徐々にそれまでたまっていた歪みが弾け始めていた。

いじめが始まった。

表裏両側面から——宇垣たちがまだ在校している手前、裏の方がより大きいのは言うまでもない——の攻撃に、坂井の心はカンナをかけるように削り取られていった。はるなは、そんな坂井の心情の変化を見逃さなかった。

期末試験前一週間の部活動停止期間を目前に控えたある日、はるなはアグレッサー候補隊の全員に、不意に1体1の空戦訓練を宣言した。

坂井の相手には男子部中1の藤倉鷺一が回ってきた。男子ははるなを相手にするほど度胸はなかったし、女子は坂井を相手にしてやるほど寛容ではなかったのである。

「何も教えないよ」

はるなは離陸前にそう宣言して、以来むつつりと黙り込んでしまっていた。坂井機の横に藤倉のF-4Sが（E型の坂井以外は全員S型である）つき、彼女たちに敬礼した。一応のルールなのだが、それさえも坂井にとってははるなに対してのもののように思えて、後席の存在が重く押し掛かってくるのだった。

坂井が答礼するや否や藤倉機は鋭く上昇した。坂井が追いに入るが、彼はすぐに切り返して降りかかってくる。すぐに相手の軸線から自機を外すが、いとも簡単に後ろに回られた。普通の中1にできる芸当ではないはずなのだが、S型には前席しか操縦桿がない。坂井の焦りはいやがおうにも高まるが、後席のはるなはそれでも何も言わない。

振り切ろうとしていくら機体を振り回しても、どうやっても藤倉は離れなかった。はるな直伝の「木の葉落とし」さえ、水平面上での機動であるかのように、びたりとついて来られた。

——読まれている？

思った瞬間、はるなの声がした。

「8回目」

途端に坂井の手から操縦桿が離れた。「もぎ取られた」と言った方が早いかもしれない。アフターバーナーを点火して一気に直線加速に入ったが、それは既に坂井の操縦によるものではなかった。……藤倉はなおもびったりついて来る。

急減速がかかった。座席から放り出されそうになった坂井の身体にベルトがめり込むと

同時に下向きのGが加わり、彼女の視界は貧血でまっ暗になって……そのまま失神した。

気が付いたのは着陸のショックでだった。普段のはるななら絶対にやらない荒れた接地で目が醒め、駐機場に停まるころには頭もはっきりしていたが、それでも機体から降りるのは、はるなの数倍遅かった。

彼女は涙こそ見せていなかったが、一触即発なのは日を見るより明らかだった。人影のない彼女たちの回りに、対抗戦に向けて訓練中の怒号と爆音が、遠く伝わってくる。時間が止まったようだった。

「……栗田、先輩……」

刹那、はるなの身体がふくれ上がったように坂井には見えた。右手が舞い上がりかけて思い止まり、やり場のない怒りは硬張った坂井を押し退けるという行動に表れた。

はるなは、再びF-4Eの前席に上り、一人で空へ戻った。

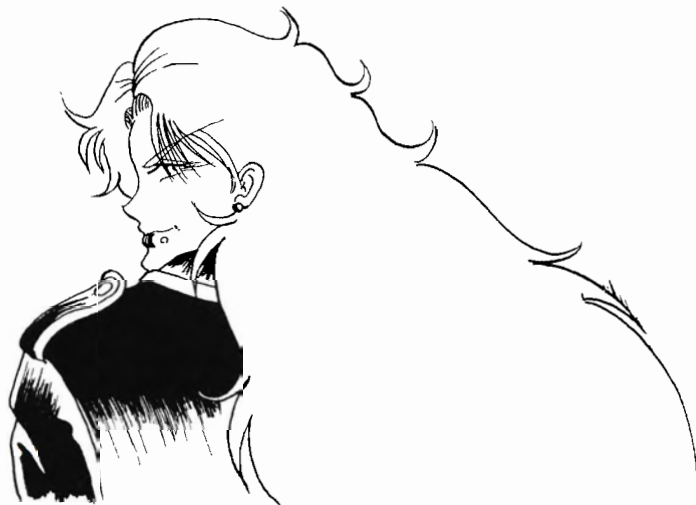
夕方までには「青い鷲模様のF-4E」の伝説が、全校に伝わった。はるなはその後手当たり次第にケンカを売り、ことごとく撃墜判定を取りまくったのだ。

榛名にべったりと言う点では坂井と大同小異だった初雁つばめは、「不相応」を心得ていたせいもあって、金剛級戦艦「白幡」に座乗して小艦隊を率いるようになってからも、自制を忘れなかった。男子部の菅原絵馬との連絡を絶やさず、模擬戦も積極的に行ない、「榛名ジュニア」の異名を実力で正当なものとしていた。反感を持つものもいるにはいたが、概ね立場は良好だった。

春日は期末試験が終わったその日、宇垣に一つの提案をした。宇垣のリハビリを兼ねて、夜になってから校舎の方でインドア・アタックをやるうというのだ。宇垣もこの種の「馬鹿騒ぎ」はむしろ大好きな方だったから、二つ返事で快諾した。人選は宇垣が引き受けたが、結局集まったのは「艦隊」の人間だけだった。各自短銃一丁。

宇垣・山城英理・榛名、南雲陸奥・永野伊勢・春日の二チームに分かれて、寮の宿直を除いて教師が帰ってしまう深夜になって、エネルギーゲージを「最低（痛いだけ）」にした上でなのは言うまでもない。

一時間ほど経つたろうか、さんざん弾を撃ってそろそろ休もうということで皆が教室に集まったとき、廊下に硬い足音が響いた。



「盗目か?」

宇垣が野太い声を押し殺して毒付いたが、各自は無言のまま物陰に身を隠した。普通の巡回なら———宿直が巡回するなど、聞いたこともないが———教室の中に入ってくるなどという事はあるまい。足音は近付く。どうやら靴底に鉄板でも仕込んであるらしく、金属音まで聞こえてきた。

ふと春日が宇垣の方に目をやると、彼女は銃床についているエネルギーゲージをいじり回していた。もう一度回りを見ると、全員がそれぞれのゲージを上げて、銃を構えている。ということは、先生の確率はないに等しいということか。春日も彼女たちに倣って、ゲージを最大に上げた。

彼女は緊張すると同時に、後悔し始めた。ここで見つければ、自分たちの立場はひどく厄介なものとなる……自分とはもかく、受験を控えた先輩たちも巻き込んでいるのだ。

足音は彼女たちの潜む教室の前で止まった。……がらりと戸が開かれ、誰かが中に……その影を見て、春日は息をのんだ。

例の金髪だったのだ。

逃げ出したい衝動がこみ上げてきたが、次の瞬間、教室の電気が灯り、

「Trick or treat!」

強制するような永野の声がした。いつの間にか背後に回っていたのである。続いて榛名たちがガタガタと机の間から立ち上がった。春日もそれに勇気付けられて、立った。

「見事だ、永野伊勢」金髪は両手をゆっくりと上げながら、落ち着いた口調で呟いた。

「さすがは忍術研部長だ。ほめておいてやる」

「会長よ」

永野がムツとなって訂正する。……自分以外は全員“同好会”の人間であることに、春日はその時初めて気が付いた。

「手を下げろ。どうせ撃つんだから」

宇垣がからかうようにニヤニヤしながら、言った。手のガバメントは正確に金髪の胸をポイントしている。

Cz75を手に行っている榛名が、そこでようやく口を開いた。

「江戸川・アラン・零、麻美に手を出したことは立派な傷害事件よ。それに今夜のこれは建築物不法侵入……それから、ここにいる全員の部屋に、盗聴機を仕掛けたわね」

榛名はそこで、相手の出方を見るためか、一息つけた。

「……勅使河原の差し金ね?」

春日は驚くというより、むしろ呆れていた。いつの間に榛名たちはこんなに情報を手にしていたというのだろうか?ハッターなら、もはやこれは限りなく犯罪に近い芸術だ。

「順に説明しよう。名前はよろしい。そこの山猿についても認めよう……盗聴機に気付いたのはいつだ?」

「答えを続けなさい!」

気が立っていた春日は怒鳴ったが、弾みで引き金を引いてしまった。遅よく弾は外れたが、江戸川の鼻柱を折ることは多少成功したようだった。

榛名はそれに構わず、親切にも江戸川の質問に答えてやった。

「つける前から」

「上等だ。しかし、不法侵入については、成立しない。私はこの真鶴の生徒であり、風紀

委員であり、校則ならびに寮規を犯した諸君を宿直教師に通報するために、ここへ来たのだ。何の問題もない」

「冗談は顔だけにしやがれ」宇垣が充分怒気をはらんだ調子で応じる。「……だから毛唐は信用できねえんだ」

「不法侵入を、不法入国に訂正すれば、どうかしら？」

南雲が補足したが、明らかにこっちの方は効いたようだった。

「何だと……」

「それに器物損壊」永野が追い討ちをかける。「風紀委員会室のパソコンぶっ壊したのもあんたでしょ」

「江戸川、アラン、零」山城がかみしめるように、ゆっくりと言った。「よくもまあ、こんなワザとらしい偽名を……」

南雲がスカートから一枚の紙片を取り出したのを、春日は見逃さなかった。その内容は彼女を“まっ白”にするのに充分だった。

「シンクレア・クライド、ドイツ系アメリカ人、シカゴでネオナチ活動家として数回のテロに関係、傷害容疑で現地警察に捕まるも脱獄。2年前沖縄米軍基地に侵入、MP1名を殴り殺し更にもう1名を病院送りにした後行方不明……半年前フェニックスで銀流会エージェントと接触したとの情報あり。目下ICPO国際指名手配中……」

「やめろ！」

江戸川、もといシンクレアは絶叫し、南雲につかみかかろうとしたが、宇垣が罵倒した。

「動くな！弾が外れるからな」

「スレッジ・ハンマーかぶれの山猿め……」

シンクレアはしぶしぶ従い、呟いたが、再び宇垣はニヤリとなって訂正した。

「Fales, Y E L L O W, OK？」

「くそ……！」

続いて何が起こったのか、すぐには春日には把握できなかった。ただ分かったのは、廊下で爆発があって、気を取られた隙にシンクレアがいなくなったという事である。

「畜生、やられた……！」宇垣がうめいた。「面倒になる前にずらかるぞ！」

「とっくに面倒なことになってると思いますけど」

春日が茶化を入れたが、もはや誰も構わなかった。

帰った寮内の自販機の前で、缶ジュースをあげながら、春日は誰にともなく尋ねた。

「今回のことも、予想のうちだったんですか？」

「ごめんね」榛名が上目づかいに謝る。「盗聴機の事があったから、シンクレアが来るってのは、チィちゃんから話があった時点で気付いてたんだ。悪いとは思ったけどね、早いとこつかまえないと、何し始めるか分からないし……それに、私はシンクレアの目的が何か、知ってるし」

「榛名！」南雲が泡を食って止めた。「ダメよ、それだけは！」

「私はチィちゃんを信じるわ」

榛名は笑みを浮かべたが、どこか陰りがあるのは春日にも分かった。

「GHQのM資金って知ってるか」

宇垣が肩を揉みながら、静かに言った。近くにある冷水機のモーターが低く唸っている。

「いいえ」

「だろうな。占領軍と、吉田茂の本を、手当たり次第読んでみろ。マーカット少将のところは特に注意しろよ。……2Aの初雁が同じ事やってるから、会ってみろ」

「分かりました。それから……シンクレアのことは、いつあんなに調べたんですか？」

「誰か一人、お忘れじゃありませんか」

急に背後からした新しい声に、春日は飛び上がらんばかりに驚いた。声の主は如月まどかである。

「提督、お役に立てたかな？」

「逃がした」榛名は苦虫をかみ潰したような表情になった。「私もヤキが回ったね」

榛名たちがあれだけのことを知っていた理由は納得できたが、春日にはもう一つ、聞きたいことがあった。

「シンクレアは風紀委員に雇われていたのに、なんでパソコン壊したりしたんでしょう？」

「身もとがバレそうになったからね」

如月はいとも簡単に言っただけで済んだ。

「春日さん、あなた風紀委員のデータファイルに片っ端からアクセスしたでしょ？あれが風紀委員のセキュリティ記録に引っかかってね。で、あいつは正規のルートで入学したわけじゃない。戸籍謄本は偽造だし、入試は風紀委員自らが裏から手を回してたし……叩けばいくらでもホコリが出てくる身だった。その証拠全部が、風紀委員のデータベースにきっちり保管されてたんだよ。委員会としては後でそれネタにして報酬をケチろうとしたんだろうけど、そうは問屋がおろさなかったってワケ」

「ハア……」

「春日さんね、あなたハッキングには手を出さない方がいいと思うよ」如月は続けた。

「私はネット上で横で見守ってたけど、危なっかしいったらありゃしない……ある程度プロテクトがかかってたら、引き際は早めに見ないと、ね？」

——やがて期末試験と、続く試験休みが明けて、大多数の生徒たちが待ち望んでいた県立小田原水産高校との対抗戦がやってきた。期末試験直後に公示された異動で榛名たちカリスマ的人物たちがごっそり抜け、新たな態勢下での慣熟訓練もまずまずといったところだ。生徒たちの間には自信と不安がないまぜになった、複雑な緊張が渦巻いていた。

新しい男子・女子総大将は、実は平均以上の能力を備えていたのだが、なにしろ今までが強烈すぎたので、どうしても陰が薄くなったのは否めない事実である。

MS男子部総大将で、全軍の総指揮も兼ねる三条久善は、戦略モニター上の艦隊配置を、複雑な思いで眺めていた。本隊のやや前方には高1の立花陽明が率いる20数隻の駆逐艦隊が先行している。左翼では女子部の主力が輪形陣をつくり、あとは主港守備隊が高3を中心として配置についている。

今回は爆撃機が使えなかった。航続力が厳しい上に、時間が読まれているから奇襲が効かないのである。少なくとも、今年の作戦会議では、そう判断された。何にせよ航続力の問題は、タンカーを使うにしても難しかったのである。

問題は立花分艦隊である。

「小艦艇による分断、攪乱」を熱心に説く立花に、「じゃやってみろ」とばかりに臨時

に編成したまではよかった。艦の選定に手を抜いたり、変な連中を回したつもりはない。しかしこの種の戦術は、最終的には相手の出方によるといっても過言ではないのである。菅原絵馬を始め、試験休み中にスパイに行った者のほとんどは、「小田原水産は集団戦で来る」という結論を出していたが、三条には今一つ自信が持てなかった。もし、今まで通り分散で来たら、彼らこそが分断・攪乱の対象になるのではないか？だとすると、自分たちは20隻からの遊兵を出した上に、彼らを無駄死にさせることになるのではないか？

「そろそろ直掩機を出せ」

三条が指示を出すと、ほどなく空母からF-14Dの編隊が発艦しはじめた。

9G旋回……

前MF総大将の栗田はるなの言葉が、彼の脳裏を過る。ニミッツ級空母「真鶴」に司令部を置く三条は、大体のMS屋がそうであるように、航空機の高G旋回を体験したことがない。

F-4にできて、F-14にできないことはないだろう……

三条は思った。

同じころ、女子部艦隊の一隻、キティホーク級「ランスレード」では、空対空フル装備のF-4Sが待機に入っていた。本邦初公開のアグレッサー班である。訓練の成果を実戦で試そうというのだ。坂井も結局はメンバーに残されていたが、孤独なのは変わらなかった。例の一件以来はるなはアグレッサーの教官を降りて、再び一般の新人教育に移っていたが、伝え聞くところでは、そこでの彼女は仏のように優しいとの事だった……坂井には殴られかけたあの瞬間が、半月たった今でも忘れられなかった。ショックは相当なもので、今回の期末も今一つ本気になれなかったし、結果は推して知るべしである。例のいじめの問題もあって、退学を本気で考えた日もあった。

気を取り直した直接のきっかけは、残り数少ない理解者の一人、初雁が艦隊司令になったことだろう。結局は自力で立場を確立しなければならない事に、彼女はうすうすながら感付き始めた。

「立花分艦隊」が最初にそのレーダーで捕らえたものは、ほんの小さな反応だった。判定はヘリコプターと出た。こちらからも索敵に一機ヘリコプターを飛ばしていたのだが、連絡はとうの昔に絶えていた。そんなわけで、1分とたたずにエコーが消えても、つぎに何が起こるかは、すぐ分かった。

「SSMが来る」

その言葉を受けて、旗艦の艦長から全艦に指示が飛んだ。

「ミサイル防御！」

しかし今回ばかりは、彼の読みは裏切られた。何も起きずに数分後、密集した艦隊の影が表れたのである。敵の先鋒と思われた。……が、これも10隻足らずで、どう考えても「数十隻規模の密集艦隊」とはかけ離れていた。

「まさか、分散で来たのか……！」

立花がまっ青になると、図ったようなタイミングで、聞き慣れない女の子の声がスピーカーに飛び込んできた。

「ナンシーより緊急連絡、小田原水産の艦隊は動いてまへん。港の入り口で迎え撃つ模様。オーバー？」

「あ？」

立花はきょとんとなった。事態がさっぱり把握できなかったのだ。本体にも電波は届いていたが、やはり立花と反応は大同小異だった。

「どういう事だ……！」

菅原絵馬は自分のモニター一杯に、小田原水産沿岸の海図のウィンドウを広げた。相模湾に直接面している関係で、真鶴岬のある自分たちよりも守るには不利なはずなのだが……自分が見た規模の艦隊を展開すれば、あるいは無理はなくなるかも知れない。

立花たちが放ったSSMは、効果をあげなかった。ことごとく撃ち落されたのである。一体、どんなCIWSを使ってるんだ。

艦隊の者は皆思ったが、立花たちは悩む暇もなく砲戦に引き込まれた。こちらが初弾を放とうとした瞬間のことである。立花以下40余名の乗員たちは、自分の目を疑った。

「そんな、ばかな——っ！」

敵艦すべてが火の玉に包まれたように見えたかと思うと、次の瞬間砲声とともに、立花分艦隊は水柱の森に包まれたのである。弾着は数十秒に渡って続き、彼らはあらかた粉砕された。立花の艦は辛うじて生き延びた方だったが、先はそう長くはなかった。

「三条先輩、信じられません……小田水は、キエフに砲を載せています……確認しただけで8基以上！10センチ級の奴です！」

隻数について報告しようとしたとき、第二斉射の弾着が彼の乗艦を引き裂いた。

「3隻のキエフに10センチ連装を8基……狂ってやがる……」

直掩に出ていた戦闘機隊の、より詳細な報告で、男子部司令部は狼狽していた。改装が思ったとおりにはできる（理論上は）のがDMの特徴だが、こんなものは普通思いつかない。

「……岩屋口か？」三条は一人の人物に思い当たった。小田原水産の物理教師。マッド・サイエンティストの素質を持ち、重駆逐艦と称してスプルアンス級に山ほどポラリスICBMを搭載したり、B-52にフェニックス運用能力をつけたり……どれも試験段階で失敗しているのだが、うわさは真鶴にも届いていた。「あいつ、まだいたのか……！」

女子部の対応は違った。榛名の影響もあって大艦巨砲主義が根強い女子部MSは、戦艦の主砲射程に届き次第、一機に叩こうということで一致した。結局はこれが正解で、男子部も合わせて50門近い大口徑砲弾が斉射しただけで、この意味不明な艦隊は消滅した。

制空権を取りに、艦載機が出撃した「ランスレード」のアグレッサーが先陣を切って小田原水産の迎撃機の群れに飛び込んでいく。下では揚陸艦が上陸準備に向けて待機態勢に入っていたし、その前方では砲戦が始まっていた。何だかんだ言っても水産高校だけあって、真鶴側が若干苦戦しているのは否めなかった。ただ真鶴ほど巨砲主義に走っていないにしてもあって、「当たってもそれほど痛くない」のが幸いなところだった。一度上陸してしまえば、地上戦に慣れている真鶴の優勢は疑いのないところだろう。

小田水の戦闘機隊は「精強」と言ってもよかった。F-14はおろか格闘戦に強いはずのF-18でさえ、鈍重なはずのF-4に翻弄されたのである。

「素質あり」と認められてはるなたちから離れ（つまり一般生徒と）練習していた伊藤早苗も、当然のことながら苦戦していた。例の「9G伝説」はどうもオーバーだという気

はしていたが、それでも敵がF-4の能力を限界まで絞っているのは疑いようがなかった。
「やーなのに当たっちゃったなあ……」

などと思う彼女だったが、何だかんだ言って最終的に3機を落とした。まだ強い方だった。坂井などは逃げるだけで精一杯に近かった。

左へ、左へ——坂井はとにかく左へ逃げるように努めていた。本で得た知識では、少なくとも総することで、落とされることだけは防げるはずだったからだ。しかし「付焼刃」は往々にして命取りになるもので、その時も「左回り」に固執したあまり、地上から飛来したSAMに彼女は気が付かなかった。

後席手は何も言わず、勝手に脱出してしまったが、それすら坂井には気が付かなかった。突然あたりが真っ赤になって……、坂井は射出された。

「このままじゃラチが開かないなあ……」

初雁は艦橋でそう思っていた。何とかしてこの「不毛な殴りあい」にケリをつけたかった。たかだか上陸するだけなのに、その前の段階でこの損害は大きすぎる。既に真鶴は艦隊の2割を失っていた。減るスピードは一向に衰える気配がない。その中で、水産科の船だけはぜんぜん沈まないのは見事だった。

「本部、初雁隊ですが、突っ込ませてください。うちの火力なら、相手を切り崩せると思います」

「却下！」

直ちに山本会長が言い返す。

「他からも言って来てるけどダメ！高々五六席で何ができるっての？」

「じゃ、その他の船と一緒に！このまんまじゃジリ貧です！」

「待ちなさい、今タイミング見てる所だから！」

初雁はそれを受けて、直ちに号令を下した。

「スタンバイ、両舷機最大戦速！副砲のセーフティ解除、司令部から号令あり次第直ちに発動！」

それから数分待たろうか、遂に全体命令が下った。

「砲戦艦前へ！突入路を開く！」

「突入！」

初雁ははるなから譲り受けた大きな木の三角定規を振りかざして告げた。早めにウォームアップしていた初雁隊は、他に一步先んじて前進、砲撃に入る。

その傍らで陸の様子を伺っていた春日は、そこで妙なものを発見した。どうやら戦車らしいが……

「つばめさん、あれ、何でしょう？」

「？」

春日に示される方をのぞき込んだ初雁は、しばし呆気にとられた。

「あれって……A+1ウォール？」

しまった、こいつマニアだ。（？）

「みんな、ノルマンディーの再来よ！」初雁はがぜん元気を取り戻した。「あの砲台全部潰すわよ！」

たちまち、大口径砲弾が沿岸砲台に、嵐のように降り注いだ。こうなると後はもう勢い

である。たちまち吹き上がった火柱に真鶴の生徒は勇気付けられ、逆に小田原水産は戦意を喪失しかけた。

いよいよ上陸が始まるとういうとき……全員の耳に、試合終了を告げるチャイムの音が響いた。

「へ？」復讐の念に燃えていた菅原は、一気にシラケた。「まだ誰も上陸してないのに？」

タネ明かしをすれば、この時小田原水産の本部に、消息を足ったはずの「偵察ヘリの乗員たち」が突入したのだった。先刻の「ナンシー」も彼女たちである。忍術研究会員の艦長、梅田香奈が自ら乗り込んで、奇襲をかけたのだ。

とにかく、対抗戦は終わった。

夕方になってから梅田は、忍術研究会長の永野に呼び出されて、みっちり叱られた。

「あのね、対抗戦では、みんなうんざりするくらいドンパチがやりたいの。試験の後何だし、ドンパチでうっぶん晴らす人だっているし……今度こんな事したら、マジで除名するからねっっ！」

翌日から夏休みが始まり、そして英語研修が始まった。気がかりだった「抽選」は結局なしのままだった。伊藤早苗は2回目だったが、他のほとんどは初めてである。飛行機に乗るのが初めてだという人間もいる。

「気分が悪くなったら、窓を開けて外の空気を……」

「飛んでる間はトイレが使えないから、地上にいる間に……」

「天井の箱はベッドになるから、寝る時はスチュワーデスに……」

など、あからさまなデマが飛び交う中、伊藤は徐々に「緊張」を味わっていた。あのわかり辛い発音が、成田のアナウンスがきっかけになって鮮烈に思い出されてきたのだ。

10時間に及ぶ空の旅の後、バンクーバー国際空港に降り立った彼らを迎えたのは、「英語の奔流」だった。成田の時点で既にその傾向はあったし、飛行機はカナディアン航空だったからいいかげん慣れていてもいいようなものだが、しかしだっ広いスペースに容赦なくアルファベットを書き立てられると、初心者には「来るんじゃないか」と思わせるに充分である。

「シバ漬け食べたい」

鳩山がぼそりと呟いたが、側にいた伊藤には何のことか分からなかった。昭和は遠くなりけり。そして、税関で一もんちゃくあった。「サイトシーイング（観光）」と答えればいいところを、坂井が「Combat」とカッコつけて言ってしまったのである。すぐに添乗員がとりなして事なきを得たが、後々になっても彼女は愚痴ったものだった。

「シャレのわからんおっさんや」

外人に分かるか、そんなネタ。

一行はバンクーバーで一泊してから飛行機でビクトリア入りし、その日は歓迎式だけで終わった。こう書くと簡単なようだが、この先が大変だった。彼らは平日の間は近くの「ビクトリア州立大学（UVIC）」の学生寮（この期間は大学が休みなので、旅行者に格安で提供されている）に泊まることになっているのだが、部屋割りが済んだ後から修羅場を迎えることになったのである。準備万端抜かりなく済ませたものは良かったが、そうでなかった者は、いきなり「英会話シャワー」の洗礼を受けることになったのである。

寮からおよそ10分ほど歩いたところに学内売店がある。売店といってもスーパーほどの広さがあり、カミソリから百科事典まで必要なものは大概揃う。……はずなのだが。

悲しいかな、この売店、閉まるのが夕方4時と早いのである。歓迎式だ何だで彼らが自由の身になったのは3時を回っていたから、よほど要領がよくなければ中をのぞくこともかなわなかった。間に合わなかった者は諦めるか、近くの他の店を探すことになるが、これがまた一苦勞。現地人との会話が成立しないのである。呼び掛け自体、こっちの感覚でいえば「チョト、イイデスカア？」の世界だから、無理もない。

授業の方は、午前中は現地の専門スタッフからみっちり英語を仕込まれ、午後はグレンライオンの生徒たちからスポーツでコテンパンにされた。小さいときから遊びの感覚でバスケの感覚を身に付けているものに、授業か部活で「ルール」として覚えた人間がいくらあがこうと、歯が立たないのは当然である。他のスポーツとて大同小異だった。業を煮やした伊藤が生徒に「ドッジボール」を教え（現地ではあまり一般的ではない）、わずかに気を吐くに留まった。

さて、気になるDMの親善試合だが、こちらは型通りに「お客様」日本の勝ちで終わった。マジメに突っかかった日本側に対し、カナダ側の負け方はそれはもう鮮やかとしか言いようがなかった。要は正直者がバカを見た訳である。むしろ個人レベルの試合の方が盛り上がったのは言うまでもない。こちらは「礼儀」として、向こうもちゃんと相手してくれたからである。

先陣を切ったのは伊藤早苗だった。

彼女はもちろんF-15J、相手を受けたローランドも当然のようにCF-188である。……試合展開はいきなりローランド優勢で始まった。普段使いなれない「高性能機」を持って余し気味だった伊藤に対して、（手荷物重量制限の関係で、普通DM機は持ち込めない）ローランドはその機敏さを最大限活かして伊藤の後から離れなかったのだ。普段から使いこなしている者の余裕が、そこにはあった。それでも減多に攻撃しなかったのは、あるいは「機材に慣れさせる」ための、騎士道精神なのかも知れない。

伊藤はそこで、一つのテクを思いだした。はるなが坂井に伝授したらしい、あの高等戦技である。

「……よいしょ」

ふわり。

意図とはまるっきり逆に、機体は軽々と浮き上がった。「木の葉落とし」を意図していたのだから、沈まなければならないのだが……

理屈としてはこうなる。F-15は推力揚力が共に大きいので、普通に機体を横に倒しただけでは沈まない。タイミングよく推力を殺さないと、「木の葉落とし」は成功しないのだ。この点、推力重量比が1を割る他の機体とは話が違った。

結局、存分に戦えないまま、伊藤は残敗に近い結果に終わった。

坂井もローランドに挑戦した口だったが、こっちの方はやんわりと断られた。その代り、9年生（日本の中3に相当）のハリー・ガネフスキを紹介された。ローランドが相手しなかった理由は後日わかるが、その時は坂井は「侮辱」に対する怒りに満ちていた。

坂井が学校の「日の丸イーグル」なのに対して、ハリーはCF-5A、ハナから勝負は

見えたようなものだった。

「ヒノマル03、リーフ05、離陸してよし」

「ふん」

一応のマナーとして、彼女は非力なCF-5Aにあわせてゆっくりと離陸した。その後の上昇では言うまでもなく全開にしたが……彼の方でははじめから高空勝負に出る気はなさそうだった。かと言って、自分に不利な低空まで降りてやるほど自分は阿呆ではない。

「カマン、ジャップ！」「ユーツー、レッドネック！」

挑発をすぐに切り返すと、ただちに坂井はハリーに襲いかかった。……が、彼は急減速をかけて、彼女をオーバーシュートさせた。後を取ったハリーは俄然強くなった。イーグル相手にタイガーでここまでできるかというほど動きが鋭くて、なかなか坂井を上へ逃がしてはくれなかった。行こうとするとすぐにかぶさってくるのだ。これは逆上した坂井の負けだった。

授業以外の時間がこんな事ばかりだったかという、必ずしもそうではない。土日は生徒の家にホームステイしたから、それはそれでお楽しみがあったのだ。多くはダウンタウンへの買物・観光だったが、立花陽明は得をした。もう一人の男子生徒と、キャンプに連れて行ってもらったのだ。

湖のほとりのキャンプ場は深い森に囲まれていて、夜は気持ちが悪いほど静かになった。他に誰もいないという訳ではない。日中湖に行ってみれば、他のキャンプ客たちが山といえるのだから。

日暮れ時にバーベキューでハンバーガーを作り、それからランプの下でみんなに将棋を教え、反対に生徒の弟にチェスでコテンパンにされる。ギターにあわせてカントリー&ウエスタンを合唱し、モノポリーを真剣になってプレイする。そしてテントの中で、寝袋で寝るとするのは、日本では滅多にできることでもあるまい。

いよいよナイアガラへ発つという前日になって、送別会の席上、ローランドは坂井をつかまえて、言った。

「君はサナエより空戦は下手だが、可能性は秘めている。ハリーとの試合を見ていて思ったが、ハルを思いだしたよ」

割りとは早口だったのでわかりにくかったが、「ハル」という単語には敏感に反応した。

「ハルって誰？」

「ハルナ・クリタ・エアーを知らないのか？」ローランドは意外そうな顔になった。「まだ卒業はしていないはずだが」

「はるな先輩を知ってるの？」

「春に一騎討ちしたばかりだし」彼はそこでウインクした。「一昨年、僕の家でホームステイもした」

興奮で息が上がるのが、坂井は自分でもわかった。

「彼女、私を避けてるみたいで」

ローランドは目を丸くした。

「そんなはずはない。君みたいにサムシングを秘めた奴を、彼女が放つとくわけないじゃないか。彼女は正真正銘の天才だ。生まれた時に背中に羽根があったかどうかは知らんが」

坂井は思い切って突っ込んでみた。

「はるな先輩に近付くためには、どうしたらいいんでしょう？」

言下に、ローランドは人差し指を立てた。

「ナンバー・ワン。君はハルじゃない。ナンバー・ツー。空は君一人のものじゃない。・・・それに、ナンバー・スリー。チームプレイ。OK？」

その時、立花たちの班の「笠地蔵」の寸劇が始まり、会話はそこでお開きになった。

ナイアガラの滝は、実際に目にしてみるとそれほど大したものではない。伊藤は去年に引き続き二度目だが、改めて「何がいいんだろう？」などと思うのだった。初雁の言を借りれば、「日光の方が結構」ということになる。

ただ、ヤンキー好みというのは察しがついた。滝つぼのすぐ近くまでひっきりなしに遊覧船が出ているのだが、渡されるゴムの雨合羽を着ていても顔面と足下はずぶ濡れになった。それに、それだけ近くにいくと、さすがに巾が見る者を圧迫するのだ。すぐ後に続いているはずの後続ボートも、凄まじい水煙で見えなくなってしまう。というより、もはや息をするのもやっとで、目など開けていられないのだ。去年の経験がある伊藤は水泳用のゴーグルを付けたが、結局状況は変わらなかった。何も見えないのである。

成田に帰り付いた彼らを迎えたのは、久しぶりの日本語の洪水と、向こうでは決して見ることのなかった「雑踏」であった。カナダの「乾いた」夏になれた彼らは、日本の厳しい「残暑」に、夏一杯苦しむことになる。

その夏休み一杯かかって、立花陽明は日本近代史をやる羽目になった。GHQはすぐにWWⅡ後の占領軍司令部だということでケリが付いた。問題はマーカットである。随分図書館通いをしてGHQのESS（経済科学局）局長だということはしばらくかかってようやくわかったが、それに関する文献はごくわずかだったし、如月の言う「M」については皆目わからなかった。やけになって手当たり次第に占領史文献を読みあさったところ、「M資金」というものを見つけた。概要はこうなる。

「M資金のMは、もともと連合軍総司令部の経済科学局長だったマーカット少将の頭文字。経済科学局は旧日本軍の莫大な管理物資のうち、貴金属などの相当部分を押収し、一部を秘密資金にしたといわれるが、真偽は不明。戦後噂が絶えなかったが、1970年に全日空の大庭社長が辞任に追い込まれた事件で一躍有名になった。その後、時代の変化とともに『ユダヤ系財閥の資金』『アラブ産油国の資金』などが登場しており、これらを総称してM資金と呼ぶことが多い」

これがしばしば詐欺事件のタネになっているらしい。一度はまさかと思ったが、何故か立花の頭からは、このことが離れなかった。新学期になったら如月に確かめてみようとも思うのであった。

今回のPC及び主要NPC（保留1）

中学 男子部 1年A組 東 大鳳

女子部 1年A組 （満月 聖良）

2年A組 有明 みどり 井村 真知子 早坂 理絵

高校 男子部 普通科

1年A組 影月 多紀 榊 裕 立花 陽明

3年F組 加賀 実

理数科

1年G組 エディ 光次郎

2年H組 菅原 絵馬 鳩山 平和

3年G組 赤城 広義

女子部 普通科

1年A組 朝比奈 美雪 梅田 香奈 春日 千明

2年A組 伊藤 早苗 坂井 法子 初雁 つばめ

F組 永野 伊勢

3年D組 霧島 宏子 栗田 はるな 長門 洋子 扶桑 和子

F組 宇垣 麻美 如月 まどか 栗田 榛名

その他のリアクション (含公開私信)

・東 大鳳

軽音班ではギターを取る。小田原水産との対抗戦では勝敗予想で賭けを張ったが、大部分が真鶴に賭けたので、商売にはならなかった。立山の臨海学校では夜中に勝手に花火を上げたのがバレて、こっぴどく叱られた。風紀委員に対抗する組織は、大きいのは「宇垣一家」のみ。最近では生徒会(中道)派が生まれつつあるが、未だ組織だったものではない。

・満月 聖良

特記事項なし。

・井村 真知子

特記事項なし。

・早坂 理絵

EFAで井村を追尾、海上で模擬空戦。

・影月 多紀

特記事項なし。

・榊 裕

特記事項なし。ボーカルの話は肝心の班長の考えがはっきりしない。

・立花 陽明

特記事項なし。

・エディ 光次郎

特記事項なし。

・菅原 絵馬

見ての通り偵察は徒労に終わった上に裏目に出た。

・朝比奈 美雪

特記事項なし。

・梅田 香奈

忍術研。MS、英海軍22型バッチ3駆逐艦々長、「プリンセス・ダイアナ」と命名。

・春日 千明

初雁の「金剛」級戦艦「白幡」に、初雁の副官として配置。

・伊藤 早苗

英検2級は辛うじてパス。……で、ヴォーカルとシンセ、どっちにする？

・坂井 法子

トランクの大きさのせいで私用の機材は持ち込めなかった。はるなの「よそよそしさ」は日増しに強くなった。

校長から

今回からアクション用紙を統一します。今までみたいに自由だと、私信と一緒に書いてくる人が必ずいるから。私は私信とアクションは別々に分類して保管しているので、これをやられると参ってしまうのです。そういう訳で、ご協力のほど、よろしく。

で今月のリアクションですが、「M資金」については立花君、春日さん、初雁さんの3人しかPCでは知りません。「知っている」ことを前提にしたアクションを他の人がかけても、無条件で無視されるので、そのつもりで。

今度は9月。文化祭が15、16日にあります。土日だつてことを考えに含めといて下さい。「何かやろう」という呼び掛けには、来月の「全員集合」を活用のこと。

なお、まだ計画段階ですが、次号は如月が一冊丸々ジャックするかもしれません。私信の様子見て、最終決定します。

それから、「真鶴学園風雲録」のルールを全面改訂して、Ver2.0を作る予定です。今のところ決まっているのは「スキル選択式」にして、登録票をうんと単純化することだけ。在来キャラについては、「校内での成長」ということで若干の設定変更は認めます。プレイヤーサイドでは、キャラ設定に自由度が高まると思います。「こうした方がいい」というものが何かあれば、今のうちに言って下さい。

「中学は要らないのでは？」という手紙がありました。これはキャラの立場の上で、結構重要なのです。中学からいた方が、あらゆるロールに有利になっているので。

生徒身上調査書

中・高 並進科 1年 A組

生徒氏名	春日	性別	男・女	国籍	日本国	生月日	2月 29日
氏名	千尋	年齢	15歳	本籍地	横浜府		
保護者氏名	渡辺 喜一郎	性別	男・女	年齢	16歳		
保護者	〒						
住所	() 方						

能力値			
体力		精神力	
腕力	5	知理解	10
脚力	11	記憶	6
走力	5	戦術	29
泳力	5	力戦略	5
瞬発力	11	洞察力	18
持久力	3	機転	16
機動性	11	決断力	10
耐久力	5	気力	7
柔軟さ	4	繊細さ	6
魅力	20	好奇心	3

写真



技能他	英検、ハク等資格
	機械語知識(唯(無免))

身長	163 cm	体重	85 kg
視力右	2.0 (.)	左	2.0 (.)
運	異性への関心		

好きなもの	秩序正義忠告信義等、
	イ男、航空機、平和

級内役職	
------	--

嫌いなもの	誤毛悪裏切り虚言等、
	年下の女、戦争、ムダな争い

部活動・生徒会	模型部、MA2
	風紀委員会 RE-FE隊配属

あまりにも低調なので、ルール改訂が終わるまで、このページは中止にします。

三 等 雑 居 室

感想。

☞「三等雑居室」にあった蔵田さんのコメントについてですが、私は、どうも金銭感覚が麻痺しているのか、それとも相場を知らないのか、「650円」を高いとは思いませんでした。兎に角、PBMが続けられればそれで良いという考えを持っていたので、多少の値上がりは仕方ないと思っていました。尤も、今でもその考えは変わりませんが。
(神奈川県・遠藤誠)

☺この種の手紙見ちゃうと、いよいよ値上げに罪悪感覚えるなあ。何にしてもご迷惑おかけしております。

☞越前紀行の話、内容半分位しか分かんなかったけど提督の思い入れは凄いな、と。自分なんて普段は小田急と環状線しか乗らないから……うん、今度ちょっと気をつけてみよう。
(神奈川県・渡辺喜一郎)

☺あれはトサカに来てた勢いで一気に書き上げたものなので、後で読んだら自分で赤面してしまいました。少なくとも、過疎路線沿線の人に見せられる代物じゃないし。鉄道ファンでもないのに半分も理解できたら大したものですよ……まあ、時代遅れのアナクロ鉄道ファンの戯言です。そんなに気にしないように。そうそう、小田急も気をつけてみると結構興味深い点が転がってますから、面白いかもしれません。細かく書くと長くなるし、このページの趣旨には反するからやめときますが。

S D。

☞いよいよ朝鮮期もラスト、ですよ？そう思って新キャラは出してないんですけど。機体リストはできました？結構メジャーな機体が多くなってくるはずなのにデータが少ないってのは泣き所ですよ。名前だけはよく知られてるのにデータが分からないってのは特にこの頃のソ連機に多い現象じゃないか、と。私には「頑張ってください」としか言えません。
(神奈川県・林孝始)

☺いえあの、ソ連機は割り切った考えしてしまうと、当時のNATO推定資料を漁れば、あらかた出てしまうんですね。今回配布の機体リストで、現在の情報と照らし合わせて「おやあ？」と思うところがあれば、それはそういうやり方で行ったからです。困ったのはむしろ西側機。当時のソ連の資料なんぞ探したってある訳じゃないし、当の西側の資料がナム戦の影響か何か知らんけどいいかげんで、パンザイ状態にはまりまくったのでした。特に三菱F-1！結局年代が合わないのでもやめました。が、「ちにすそすちはか」だと最大速度すら出ていません。ジャギョフ田中から借りた本でようやく推定データを出しましたが、あれは徒労感が強かったなあ。

真鶴。

☞「お昼だヨ！」

なかなか良いですね、コレ。読み物としても面白いので、もっとページ数を増やして欲しい。さすがに本文が4Pでは、ちょっと寂しいものがありますから。

あと、もう少しコーナーがあるといいかも。本編と関係ないようなものでも、校内放送ならではの楽しみとか見どころがあればまた、充実しますからね。

今はこのコーナーがBlowers奇数号の目玉になれば、と期待してます。

(神奈川県・渡辺喜一郎)

㊦…よかったア。最近、やることなすこと全部裏目に出てるような気がして(特にBlow関係)減入ってたから…でも、コーナー追加って、どんなの足したらいいと思う?キャラコンやってもいいけど、それだと奏愁のデッドコピーになりかねないしね…(もうなってるという噂もある)

ゲー & マー。

☞15号だと僕が遊び人みたいで、やだなあ。最近メックに乗ってないし、ゲームセンターにもほとんど行かないし、マジメに学生やってるんだけど誰も信じちゃくれない。今度、機会があれば、一緒にメックに乗りたいですね。

最後に一つ「リョウコ…貴様もか!!」

…やっぱ信じてもらえないかな…

(神奈川県・堀尾章太郎)

㊦そろそろまたバトルテック大会やりますか?…今月は私が干上がってるので、ムリですが。8月末ぐらいの日曜でどうでしょう。ところで「リョウコ」って何?…そーいやワールドヒーローズ2にそんな感じの柔術使いがいたような気もする。ハアアアア戊殺掌っ!…あ。

☞バトルテック、ついに私もスタンダード・クラスになりました。ただ、スタンダード第一戦が散々でしたけど。始めてやるマップで、使用機がマッド・キャットv3。地形はわかんないわスピードには振り回されるわで、当初予定していた「一撃離脱戦法」なんか使う暇もなく、結局撃破0被撃破4のスコアが-2162ポイントという自己ワーストを打ち立ててしまったのでした。「次回はもっとまともに戦ってやる!」と決意した私は、次の乗機はマッド・キャットv1にしようと考えております。横田のときにはよろしく。

(神奈川県・林孝始)

㊦私のスタンダード第一戦は2勝6敗-2140ポイントでした。こないだ以来マイナス憑いているようで、昇格以来の最高ポイントは-182です。林さんはマッドキャットですか。私はバルチャー2が使い易いなあ。アウトレンジで狙撃するには、適当に速くてラージレーザーが無いとキツイんですよ。避けるのヘタだし。…行ったことない人には全然わかんないネタですまぬ。

そう言や、堀尾さんは普段何使ってるの?

☞そーいえば菅原忠幸君宛になるけど、ジャン・ピエールはいいね、男だったらダンディズム。

(福岡県・下永弘典)

㊦? ? ? ? ?

☞(前略)私はあいかわらずのゲームばかりです。最近はNEO-GEOのワールドヒーローズにはまっています。しかし、最近の格闘ゲームのCPU戦の難度は高すぎます。あれでは、初心者ではできません。(秋田県・菅原忠幸)

⑤ワールドヒーローズねえ。話はよく聞くんだけど、私の行き着けの(言うほど行ってもいけないけど)ゲーセンには置いてないです、多分。最近は「クイズF1グランプリ」(聖護院麗華しか使わない)、「リーサルエンフォーサー」(空港面が好き)「戦国エース」(勿論アインしか使わない)、「SONIC WINGS」(当然真尾まおしか使わない)「FA」(専らF-4E)ぐらいしかやり(やれ)ません。…こうして見てみると、結構多いか。

☞つい最近、念願だったプリメを手に入れる事ができ、日々、燃え続けています。

でも、ミス王国コンテストでは、リバ・ローにどうしても勝てない!武闘大会では2回戦で敗北というパターンが続いていて、平凡なエンディングしか見れなくて、泣き伏せています…

だれかあ〜武闘大会で勝てる方法教えて下さい…。(神奈川県・あずち)

⑥プリンセスメーカーねえ。じゃぎゅあ田中が言うには「シムネーチャン」だそうで、これは言いえて妙ですナ。やったことないけど、あれっておもしろいの?今までに方々で聞いてきた話では「娼婦にして売っ払う」がお約束らしい(←屈折している)けど。武闘大会があるとは初めて聞いた。

教職。

☞一週間ほど前から、社会科の教育実習生K先生(女)が来ている。だけど、そのK先生は女にして女でならず、という感じで、「女である」と本人から言われないうと納得できないほどの巨体の持ち主。まるで男そのものなのです。

教育実習期間、初日の放課後では(男としてみられていたK先生は、その事に対して腹がたったのでしょう)げた箱にスリッパを投げつけ、「ざけんじゃねえよ!」と叫んで何くわぬ顔をして立ち去ったそうです。誰もいないと思ってやっていた事なので、3年の女子が見ていたのです!(次の日には既にその話が3学年全体に広がっていました)

そしてまた、3学年の社会科の先生であるE先生と口論したり、E先生の授業をねむりながら受けていたと、悪いうわさばかりが広がっているばかりです。

教え方も下手でどーしょーもないので、人気は舞ったくありません。あれで社会科の先生になれるかどーか、他人の事ながら心配なこの頃です…

(神奈川県・あずち)

⑦私も教職課程は取っていて、しかも来年現社で実習する予定なので、この話はタメになるなあ。まあ、このK先生の場合は多分、実習の単位は取れないでしょう。ここまでひどいとねえ。寝ちゃいかん寝ちゃあ。…中には免許取るだけって人もいるから、こういう実習生が出るのも仕方ないんだろうけど…

… 鏡人のその後 … — 6001's X6010 —

「音楽やんや電話して
張れん」

… 皆さんのことははなした時のFREE TALKをよければ …
今日はちやんと音楽について。

今から2〜3年前、D'ERLANGERというバンドが在りまして、
自分はそのバンドのFanでした。…ところが、D'ERLANGERは
固まった活動もなくなってきたみたいでした(笑)。

…とここで質問したんですが、自分の周りの人の中には誰一人
D'ERLANGERも知ってるやけな人はいなかった。俺にも、
という人は「そんな曲のことまで知るのはやけなく、もっとX-Japan
バンドの歌を聴いてよ」とかぬかすんだ。

有名な奴の音楽やらいじりたてに「つまらない曲でもいいのか
と思いましたね。マイマイの曲とか全然歌とかが自分の目
耳で聴くのが流れてとか、そんなもんがつかの音楽はやめ聴く気
にさせたらいい!!」
「確かに音楽聴いてFanになるのは
音楽世は世直の風流月に流すんが 自分の
目より(見)ぬてみろ。本当の曲の良さも悪さが
見えくるん(世直ね?)」

…あ、それ以外も
聴いてね↓
DIE IN CRISISも…
(しつこい)



◎私はこの辺は疎いので、コメントは妹に頼もう。 (神奈川県・渡辺喜一郎)
菊地妹：はい、エクスタシー系のファンの妹です。実際、その手の音楽は迫害され
てますね。でも、D'ERLANGERは結構有名だと思いますよ。音楽が好きで、自分から
情報を得ようとしている人なら知っている筈です。そうでなかったら、その系統に
生理的嫌悪感を感じる人ではないでしょうか。そんな人を相手に怒るのは無駄な事
だと思います。私はZi:kill、X、LUNA SEAその他、いろいろ聴いています。そんな
事に怒る位なら、私と話をしませんか？(あ、もしかして返事になっていない?)

○空技廠TRENDY-NOW!

1 FA始動なのら(菊地)

とうとうナム戦だねえ。今回は制空よりゲリラがメインですが。

2 夜桜忍法帖、第二部・狼たちの決死圏開始

(遠藤)

ハア、さいですか。あれって多部構成だったとは…楽しい?

横田へ行くぞのこと

7月24、25日に米空軍横田基地でオープンハウスが予定されています。で、
行くのは25日(日)。ただし前日に小雨でも降っていたら、中止です。(ヘタに
晴れると蒸すので)同日にクレギオンの集会もあるはずなので、この点は絶対です。
実施する場合は国鉄立川駅の南武線ホーム、川崎方面の一番端で10時までお待ち
いたします。

横浜で遊ぶぞのこと

第二次バトルテック大会は、とりあえず8月8日(日)でどうでしょう。時間など細かいことは、参加状況を見ながら、次号あたりで発表します。参考までに諸経費を出しとくと、登録料が1000円、1プレイが1000円。で、登録したての人は2000円で3回プレイできるチケットがもらえます。3プレイの後またストII(ターボはよそうね?)バトルロイヤルをやるつもりなので、それなりの余分は見ておいて下さい。それともカラオケ&飲み会(もちろん未成年はコーク)の方がいいかな?「行くぞ!」という人は、その辺の希望も併せて菊地まで連絡を。

余談ですが、この大会は空技廠創業5周年記念イベントにするつもりなので、なるべくたくさんの人に来て欲しいですね。

日程変更 京都も行くぞのこと

例の「梅小路蒸気機関車館見物会」は8月28日(土)に変更です。大地震が来ようと、神宮寺が来ようと、新幹線が止まらない限り決行します。8/29はクレギオンの大阪オフイベがあるとかで、来れない人もいるようなので。

朝11時までに京都駅烏丸中央口横「銀の竹」の周りに集合。その時点で最新の「Blowers」を持って、私こと菊地が待ってます。それからフリートーク(雑談)など交えつつ、物見遊山。夕方4時ごろ解散の予定。

長距離切符で来るといふ人は、山陰本線の「丹羽口」という駅まで買って置いて下さい。それ持って京都で途中下車すれば、いちいち切符を買わずに済むはず。遅刻した人は丹羽口まで直行し、自力で道を確認しつつ現地で合流すべくあらゆる手を尽くすこと。それからごく一部の身内を除き、「京都まで一緒に行く」というのはご遠慮願うので、そのつもりで。汽車の中で3時間近くも間をもたせる自信は、私にはありませんから……

Mental Ranger

読者プレゼントの話

本文の後にあった読者プレゼントクイズですが、賞品は、

「お土産・ふるむ・京都!」

です。何が届くかは秘密(まだ決めてない)。返品・クレームは一切認めないのでそのつもりで。……何、大したものじゃありません。多分梅小路のSLグッズ(キーホルダーとか)か、京都名産生八ッ橋(字はこれでいいのだろうか?)か、そのへんでしょう。これも空技廠創業5周年記念イベントの一つです。

締め切りは、Blowersの原稿締め切り(裏表紙にあり)と一緒にです。

王虎闘史 日程変更のお知らせ

大変申し訳ないのですが、テストプレイは中止になりました。ご送金下さった方には今回全額返金いたします。正規のルールは次号には間に合わせるべく、現在じゃぎゅあ田中にムチをびしびし入れております。(自分に入れろという噂もある)

セージの小部屋 2

こんにちわ♪「一回で終わる」などと言いつつ、二回目になってしまった「セージの小部屋」です♡

今回は皆様をお願い♡実は大分前から言ってるキャラの設定ぼしゅーの件なんですケド、まだ約半分の方しか送って下さってないんですよねえ～。「絶対送るもんか！」ってゆー方は別として、他の方はぜひとも送って下さい。そーしないと「表紙に出るのは毎回同じ顔」になっちゃって、描いてるほーもいまいち面白くなくなっちゃうんですう～。

で、すでに送って下さった方も、そのキャラクターの設定をさらに送って下さると、(例えば好きなファッションやホビーなど)イラスト化しやすいのでうれしいです。そしてこれは注意していただきたい事なんですけど、そのキャラクターのイラストを描いて下さってる方はともかく、そうでない方はそのキャラクターの容姿などをできるだけくわしくお願いします。

と、まーそーゆーわけでよろしゅうにい♡

そしてお・ね・が・い・2！イラストその他のとーこーが異様に少ないぞ！送らない！私がやってる他のPBMは、イラストとーこーが多すぎてヤになるくらいなのに…読者の反応が異様にならないのがBlowersの特徴なのかいな…？

と・も・か・く・イラストのご意見ご感想待ってま～す♡

そりでは、あでゆ～うう♡

古切手回収の話 (続報)

徐々に送ってくれる人も、枚数も増えています。ありがとうございます。それから回収責任者の方から返答が来ましたので、必要なところだけ抜粋します。

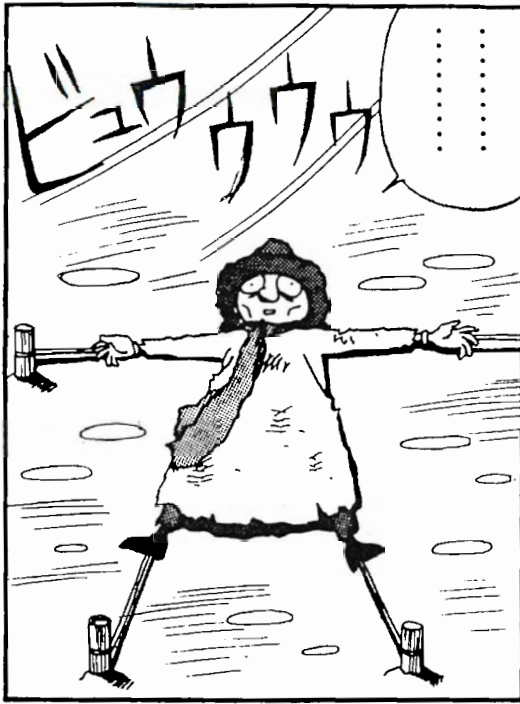
☞ (前略) 返答はJOC S (註: 日本キリスト教海外医療協力会) の担当者&パンフレットからですので、全団体に必ずしも当てはまるかはわかりませんが、ご了承下さい。

1. 使用済み切手の使われ方

大部分は台紙付きのまま箱詰めにし、郵趣家や切手商の協力によって換金されます。(一部はがして換金するものもありますので、傷ついたりシワにならないよう、水はがし可能であればはがして頂いても結構です) 得た収益は医師・看護婦・保健婦などを海外に派遣する資金にされます。JOC Sでは現在、バングラデッシュ、ネパール、カンボジア、台湾の5ヶ国に計10名のスタッフが派遣されています。

2. 換金できない切手

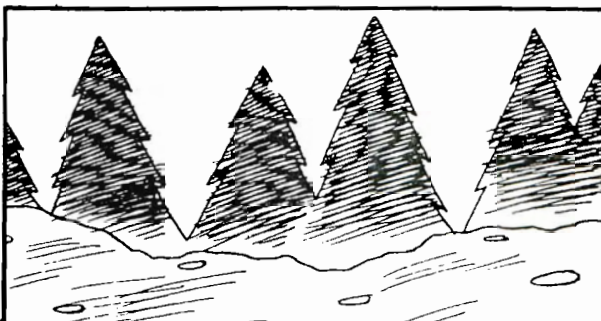
- ・傷のついた切手 (まわりのギザギザの欠けたもの、破れや汚れ・折り目のあるもの)
- ・はがした切手を再び紙に貼ったもの (はがした切手はそのままでOK)
- ・セロテープなどが切手に貼られているもの (以下略)



こうして
同人PBMの
汚物、
変態こじき
K地K一郎は
永劫の眠りに
ついた
そして彼の
なきがらに
近ずこうと
する者は
だれ一人と
して
いなかっ
た
かつこい
いなあ
K地K一郎



だが、
テールブトク
の新発売が
あるかぎり
油断は
できねえのだ

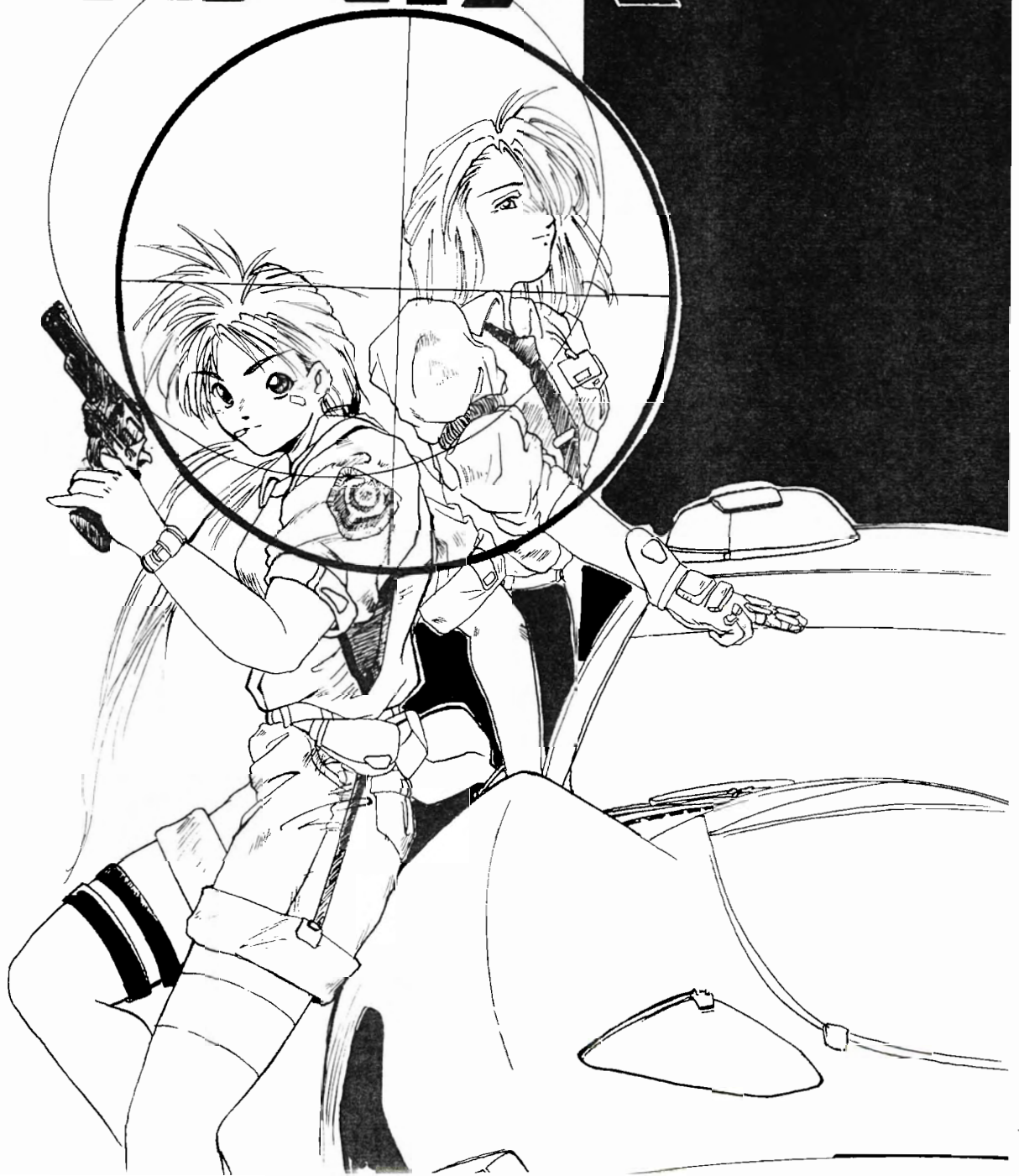


同人PBMに
束の間の
平和がきた



Peace
Presser

MAYA



序：21世紀末期は、機械化された分野に人類が再進出した点で、一種のルネッサンスだった。それは雇用人口の確保を意味すると同時に、技術・文化的な面での懐古思想をももたらした。

一方で惑星開発技術は必要に迫られて、飛躍的進歩を遂げていた。なお漸増傾向にある人口密度を解決するために、火星の地表には直径160km規模のドームが建設されていた。この開発計画に先だって試験的に月面に建設されたドームは、今は住宅地として再開発が進んでいる。もう一つの解決策として脚光を浴びていた軌道コロニーは、2085年に発生した大惨事後急速に人気を失い、衰退の一途を辿っていた。環境維持システムの暴走により、1000万人に及ぶ住人たちがなす術もなく死亡したのだ。

「国境線」は20世紀末ときほどの変化はなかったが、国境線そのものの概念は薄れ、それと共に国連の地位が高まった。先の月面ドームも国連主導によるものだったし、軌道コロニーもそのほとんどは一定期間後の独立を前提に、国連が直轄統治していた。

「国際間交流」の活発化と共に犯罪の規模が多様化していくのは世の常であり、この時もまた例外ではなかった。まだコロニーの未来がバラ色に輝いていた2084年、とある国際事件を契機に、各国警察間の連絡組織にすぎなかった国際刑事警察機構（ICPO）が、国連直属の治安警察としての立場を与えられるようになり、各国警察に優先する上級機関として機能するようになった。

21世紀は、必ずしも平和とは言えなかった。

1：正面ガラスがなくなったパトカーを手近のコンテナの山に横付けにした私は、そのままドアを蹴飛ばすように転がりだして、身を隠した。

間髪を置かずに車が炎上する。

腰の銃を抜いて、残弾を見た。今朝出勤してから一発も撃ってないから、当然ながら6発全部残っているのだが……前に、捜査官になりたての頃、弾

倉が空の銃を持って行って死にかけたことがある。あれはメンテナンスを終えた直後に出勤がなかったからだが……確認は怠りなく、そして備えは万全に。弾倉を戻すと、その音で狙ったか、マシンガンが唸って傍らのコンクリートをえぐった。

やれやれ、人工鼓膜付きはダメじゃない。私はうんざりした。

燃え盛る車のすぐ側でリボルバーの弾倉を出し入れしたところで、その音などタカが知っている。それを聞き分けてしまうのだから、たまらない。情報では潜んでいるのは一人だけだが、果たして戦力は何人分に相当するやら。不法手術によるサイバーソルジャーなど、今では珍しくも何ともなくなったが、それでもこちらは生身、怖いものは怖い。さっき無線で応援は呼んでおいたが、さて……あと5分か、10分か。車が燃えつきるまでにヤマが片付けば、私は来た連中全員に一杯おごってもいい。

早く相棒来ないかな。

ふと、思った。こないだまでいた相棒は、下品なジョークの好きな男で、あまり気に入らなかったが役に立つ奴だった。少なくとも、こういう時、私が突入するのの援護はきちんと務めてくれた。悪くはない奴だったが、先週サイド3に転任になった。サイド3は軌道コロニーで、おしなべてスラム化がひどい軌道コロニー群の中でも、割と「まとも」な方に属する。

交代はあまり間を置かずに来るのが通例である。が、今回はどういう訳か辞令が発令されて一月目の今日もまだ来ない。その間にと回された「簡単」なヤマがこれだが、……どこが簡単なんだか！タカをくくって一人で乗り込めば、このザマである。早めに応援呼んどいて正解だった。こういう時の悪い予感だけは、決まって当たるのだ。遠くでサイレンが鳴っているが、あれは違うだろう……近頃は東京も危なくなつた。100年前は銃撃戦がTVニュースで大きく取り上げられたらしいが、今では誰も気にしない。下町の方では子供までが玩具のように銃を持ち

歩く。もつとも、奴らが持っているのは玩具同然だ。

尼崎摩耶捜査官、東京羽田の倉庫で銃撃戦の末、殉職。

悪くないが、も少しハデな方が……

そう思いながら様子をうかがって、私は目が点になった。ダークカラーのスーツ姿の女性が、出入口の横で立っている。犯人とは違うし、賞金稼ぎとも違う。……オートマチックの銃を手にしていて、こっちには気付いていない。色のあせた金髪の女性で……歳は30くらいか？……雰囲気的には警官らしいが……

だめだ、あれじゃ5分ともたない。銃の構えからしてなっていない。

「待てっ！」

一声上げて走りだすか否かのうちに、再び弾がとんできた。……しめた！敵は照準機能は持っていない。あつたにしても安物だ。これで少し勝ち目はできたってものだ。建物のひさし、つまり奴の死角までの数十mを一息で走りきると、彼女の横へ転がり込む。

「あなた何者？」

銃口を向けて私は尋ねた。自分の方は胸にICPOの身分証が留めてある。

「通りすがりにパトカーが燃えていれば、誰でも不審に思うわ」

金髪女は至ってクールだった。

「私はICPOモスクワのヤーニヤ・モロフォビッチ」

名乗ると同時に彼女は身分証を示した。……本物だ。ICPOも随分落ちたものである。よりにもよってこんな不用心な奴を採用したとは。

「助太刀は有り難いけど」私は怒気を飲み込みながら、宣告した。「帰っていいわ。あなたがいると、守る対象が一人増えるから……今は自分だけでも手に余ってるのに」

「後悔するわよ」

捨て台詞らしかったが、そんなものに構う気は毛頭ない。引きずるような金属音……多分弾帯だろう……が、壁の向こうから窺こえてきた。放つときゃよかった。馬鹿に構ったおかげで自

分から逃げ道を絶ってしまったのだ。

……こりゃマジで殉職か？

あきらめがついたのと、マシンガンの乱射で鉄扉が吹き飛ばされるのと、2台のパトカーが到着するのが、ほとんど同時だった。

20分にわたる銃撃戦の後、ようやく犯人は射殺された。

2：東京警視庁のパトカーに寄り道してもらって本部に戻った私は、報告のために入った主任のオフィスで、再び彼女を見ることになった。

「現地警察から報告はもらった」主任は無然とした様子で言った。「彼女が新しいパートナーだ。もう会ったらしいから、紹介は省く」

何か、いやな予感がした。追い返したことも言ったのだろうか。ヤーニヤの意味深な笑みが、少し気にかかる。

「慌ただしいが、また一つヤマを持ってもらう」

慌ただしいのはいつもの事じゃないか。そう思ったが、追い返したことは早くも忘れていた。

「サイド4から秘密資料を持ち帰ろうとしたうちの捜査官が、乗っていたシャトルごと爆殺された。資料そのものは念のために別送されたから、無事だったがな」

「他に死者は」

私は確かめた。それによって相手の背景が何となく予想できる。

「連合軍のパイロットだけだ。専用シャトルで行動していたから、民間人の死者はいない」

「じゃ、私らはその犯人を捕まえればよい、と」

「その通り」主任はうなずいた。良かった、その範囲で済んで。「早速かかってもらう」

そこで初めてヤーニヤが動いた。

「よろしく」と言って手を差し出したのだ。

軽く握り返しながら、私は思った。

何でこんなのと組むんだろう？

自分のブースに戻ってはじめて訳がわかった。捜査官控室——私たちは「タコ部屋」と呼んでいる——は、それ自体はテニスコートが一面は取れる広さがあるのだが、これが背丈ぐらいの高さの、アクリルのついたで4畳半ぐらいずつに仕切られていて、一班一室が割り当てになっている。要は実務上最低限の広さしかないのだが、その中のど真中に、えらく古臭いデザインのコンピューターが鎮座ましましていたのだ。私は電子機器には弱いが、この手の代物が100年は昔に絶滅したことぐらいは知っている。

じゃ何だ、このガラクタは？

入り口で硬直した私に、ヤーニャは得々として解説を始めた。

「これはスプートニク。私の手作りよ。……」

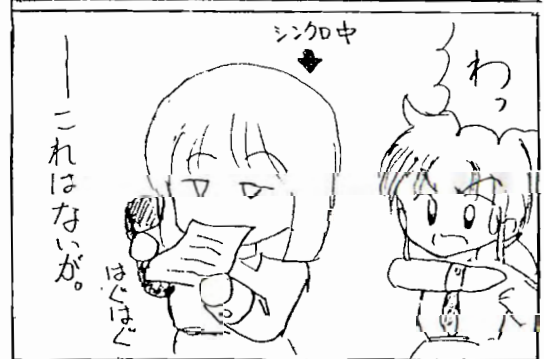
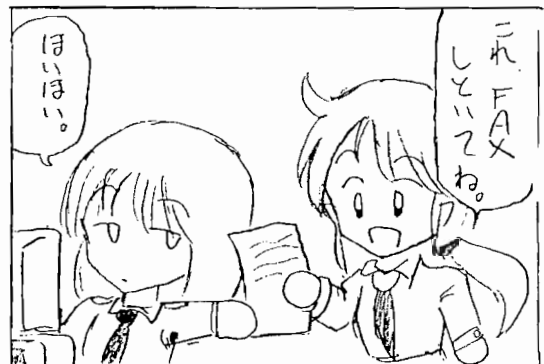
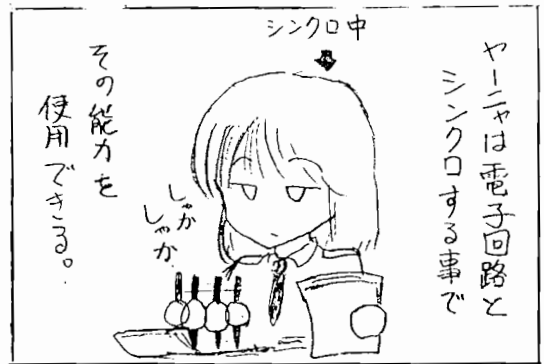
そうか、こいつはコンピューターのプロなんだ。このガラクタがこのロシア人の手作りなのはわかったが、そこから先は私の理解できることではなかった。要は、そこらで流通しているパソコンなんかよりずっと頭がいいらしい。まあ、私はそこらを歩きまわってネタを仕込む方が性に合ってるから、これの世話になることはまずあるまい。上の人間は私が官給の情報端末をよく暴走させるから、そのサポートにこいつを回したに違いない。

「私はそいつの世話にはなんないよ」

ハッキリ、そう言い残して、私は自分の席についた。うう、狭い。私のブースも他の大体のと同じように、席は背中合わせにして入り口を横手に見るようになっている。机の上は大分散らかっているが、自分で何がどこにあるかはわかっているから、それでいいのだ。

ヤーニャが不機嫌なのは、背後の気配ですぐわかった。しかし、この種の「機械信奉者」は、ある程度自信を崩してやらないと、いつか機械の下っ端まで落ちてしまうのだ。好きでやるんなら構わないが、それでも自分のそばにはいてもらいたくない。

やがて私は資料に没頭して、ヤーニャどころではなくなった。





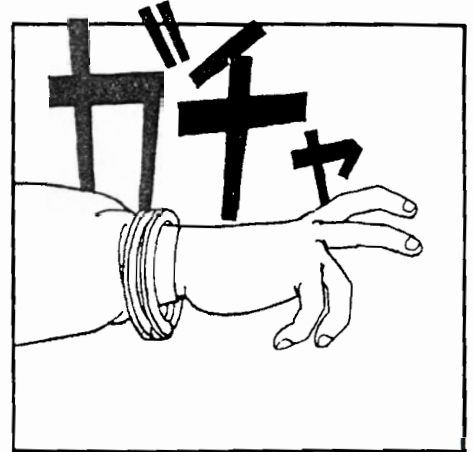
うっ
うわっ
こんにちは
しめきり
しゃん



落ちつけっ
われわれ
我々には
オープが
あるのだッ



うおっ
どうなっ
とるんだ
一体ッ
バグじゃ
ないのか
これはッ

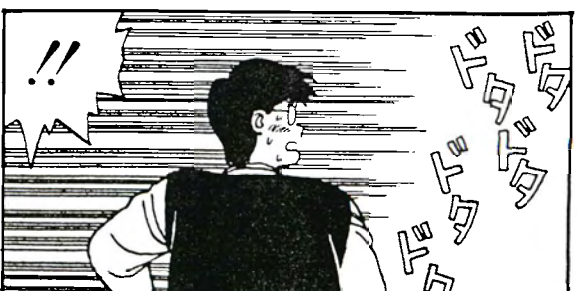


……
そういえば
こないだも
変な本
見せてきた
オヤジが
いたなあ……

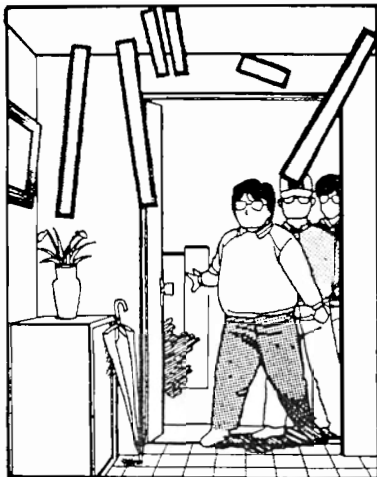
こうなれば
もう
リセットしか
ないのでは？

うわあ
われわれ
一体我々は
どうすれば
よいのだッ









うーむ
そう言われれば
あやしすぎる…
そう言わなければ
あやしくなすぎる…

みんな
見てくれ…
あの家なんだか
あやしいだろう



そのRを



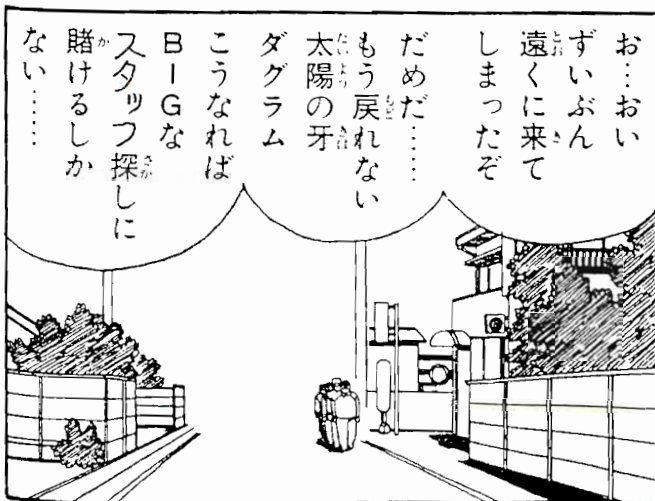
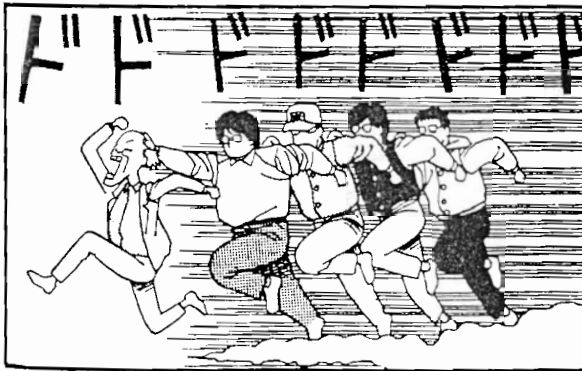
ヌウウツ
なぜだッ
なんで我々は
まともな
ファンタジーが書け
ないんだーッ
くやしすぎる

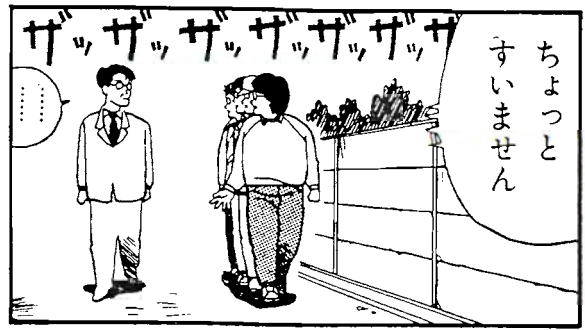


なっ
何よ
あんたたちっ



おおっ
タ…
リノダ…
ナ…





カクカクカ ピッ

▶はい
いいえ

ゲームセンター
てんちよう
※「ブタよ、どうしても
たびたつのか？」

何？
自分で本を
出す？

ズガガッ
ボン

ピラリラーン
ジャン

ズズズン
ジャン

そう言えば
月刊SHIEFは
このところ
ゆくえ不明
らしいな……

ロール
バック
バック

そうか……
SHIEFの長
境一憲は
立派な
同人誌戦士
だった……

K地

ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ

くれくれも
絵描き集めを
忘れるで
ないぞ

ブタ、
わたし達も
お供するぞ

ボン

テケテケン

ブズン
ジャン

ありがたい
おんどれら

山甲 永平寺 正京

よし、では
行くがいい
ブタ

ドドド

公開私信：

この本が届く頃、
うちの猫が10歳の
誕生日を迎えます。
名前はミーコ。メス
です。黒トウの
雑種で、最近
寝てばかりです。
よしかしたら、皆さんも
個々に祝ったげて
下さい。

菊地 拝

航海日誌

菊：「紅茶鑑定人のパンターさん」このCM
に反応してしまふ自分が悲しひ……
田：「YS」を見て編集長曰く「フライトシ
ミュレーターか？」イースだつてば……
た：北海道神宮祭で神楽を観てきた。きれい
だった。
孝：ようやく仕事の方も一段落しまして、先
月までとはうって変わって暇な日々を過
ごしております。ただし、残業がなくな
ったのは経済的に大きな打撃を及ぼそう
としております。今月車検だし。

Crew

編集長：菊地研一郎／編集補佐：宇垣麻美
田中真人／筆者：正宗征士 じゃぎゅあ
岬当麻 本居小次郎／絵：井村和正
セージ 牛 孝行始 ただのりな
T I (脱稿順)
Thanks to Y. Fukuoka.

Blowers第16号

第4巻第5号(通巻17号)
平成4年6月28日発行
代価250円(送料別)
編集人・発行人：菊地研一郎
発行所・印刷所：「空技廠」

本誌記事の一部または全ての無断使用を禁ず

表紙：Haruna with 15&16 画・孝行始

次号「総員退艦！」は

7月末日発行予定です。

もしかすると如月が独占するかも知れません。
原稿・投稿メ切は7/24(必着)です。
夏コミ等で多忙な時期ですが、ご協力よろし
くお願いします。